昭和32年3月卒業式の時

會報

第五号

平野先生特集号

東京女子大学同窓会数専会

昭和 30 年

昭和 24 年

昭和 32 年

昭和 6 年

昭和 6 年

昭和 10 年

昭和 13 年

昭和 17 年

目次

三十二年度総会報告……
感謝と願い……小林薫一
平野先生と花……中谷太郎
感謝……野原博
平野先生と私……青山なを
無題……天達文子
おのずと光る先生……林としゑ
怖かつた平野先生……高見沢潤子
平野先生のこと……落合かつ
平野先生の横顔……小塩れい
平野先生が光先生であつた頃……村瀬幸子
無題……丸山キヨ子
無題……三木隆
平野先生……飯田悦子
平野先生の特集号に……樋口千嘉
無題……辻岡登志江
平野先生のこと……関桜
感謝……根岸愛子
無題……福原徳子
平野先生への記念品贈呈を計画して…豊泉しげ
募金報告……
研究室便り……
研究部報告……
通信……
会則……
編集後記……

三十二年度総会

五月四日　一時半―四時半
於　東京女子大学
会費　貳百円(写真共)

プログラム

第一部　総会

一、開会にあたつて　豊泉しげ
一、経過報告　根岸愛子
一、研究部報告　柏木真寿美
一、会計報告　今井チエ子

第二部　平野先生を囲んで

一、開会礼拝　原美根子
一、平野先生へ感謝の言葉　中屋澄子
一、懇談
茶菓・スピーチ・独唱
一、記念品料目録贈呈　片岡ヒサ
一、平野先生の御挨拶
一、閉会礼拝
一、記念写真撮影

報告

第一部　総会

豊泉しげ

一、開会にあたつて

定刻になりましたので始めたいと思います。今日は皆様大勢御出で下さいまして有難うございました。今年の総会は平野先生の事もうす〳〵漏れ承つておりましたので、どんな形にもつていつたらよいか、より〳〵相談はしておりました。「平野先生感謝会」とか「平野先生還暦祝」とかにして総会とは別にしては？　とか色々多彩な案もございましたが、平野先生が御自分の事で特別にされる事は御嫌いだからやはり総会と一緒にして表面は総会内容は平野先生感謝会という事に致しましようという事になりました。自然平野先生の感謝会をどうするかという事に話は集中いたしました。先ず第一に話合いました事は記念品を差し上げたいと言う事でございました。何がいゝのか、物にしては？いやお金にして先生に何か買つていたゞいた方がよくはないかとか、仲々きまりませんでした。何回か幹事会をひらきました結果をかいつまんで御話を申し上げますと、最初に話しましたのは年代順に集めたスナップ写真入りのアルバム帳、卒業生が何時でも来て料理の講習でも出来る所があればと、かつて仰言つていられた事を聞きかじつていたのでその為に台所増築に当てゝいたゞいてはとか、土地を買つて先生が時々休養にいかれる処は、どうでしよう

とか、そういえばお台所に冷蔵庫がないようでしたねとか会の度に金額もふまずにあれやこれや考えましたがどうしても適当な物はみつかりませんでした。結局先生に適当な物を買つていたゞくことになりました。

それでは買つていたゞく為にどの位のお金を集めたらいいか、最低十万は要るでしようけれど之をどういう方法で集めたらいゝか、一口金額をどのように決めようか、この算出方法は次の様に致しました。何か連絡通知を差し上げると返信をいたゞくのは約1/3位だそうですからこの計画に応ずる方が約1/2とみて三百五十人、雑費印刷費等実際に当つてみたら約三万、少くとも十三万集める為には一人当り約三百七十円、この金額は人によつては多くもあり、少くもあるという事から大ざつぱに一口五百円と一口弐百円と決めました。

次に発起人ですが、同窓会でも是非御仲間に入れていただきたいとおつしやつて下さるし、数学研究室でもと言う事でしたが範囲が広いと仲々連絡がとりにくいので、実際は同窓会も、研究室もあつたにしても一応数専会の方々一人一人になつていたゞいた方が事の運びが早いという事で便宜上その様に致しました。

その他印刷形式、文字、仮名づかい、紙質、大きさ等吟味致しました結果が御案内致しました様な物になつたわけでございます。もとより素人ばかりの寄り集りでありはじめての計画でございますので最初は何から手をつけていゝのか、何を相談したらいゝのか全く分りませんでしたが、幸、小林先生から見本をみせていたゞいたり、先生方の御智慧を拝借したり致しまして段々と意見も出てくる様になりました。

実行委員の一人々々家庭を持ち、職場を持ち、毎日の生活に追われ乍らでございます為、精一杯致しましたつもりでしたが出来上つた結果は必ずしも思う様にはいつておりませんでした。行届かなかつた点、気がつかなかつた点、漏れている点、穴だらけだと思いますがどうか御見逃し下さいます様御願いいたします。尚今日は誰方でも御気づきの事はその場で補つていたゞき、平野先生を御自分の家にお招きしたつもりでお迎えしていたゞき度う存じます。

一、経過報告　　根岸愛子

昭和三十一年

六月二一日　三十一年度総会開催、会長改選により昭・六・卒　豊泉しげ氏に決定。

十一月十四日　講演会、高木貞二学長「動物の心」臨時総会、客員の件及び役員・会長の選出方法について会則改正を行う。

十二月一日　幹事会、会報の編集について（会報は十二月末発送）

昭和三十二年

一月十二日　一月十六日の科学史の講演後、卒業クラスに数専会の説明をする。

今年の計画

二月九日　新卒業生歓迎会。

阿部先生の追悼号を出す。

二月九日　於　キャフテリヤ

新卒業生歓迎会、約八十名出席。

平野先生御退職について小林先生より発表あり。

二月十六日　幹事会、平野先生の御退職についての計画、五月の総会を先生に対する感謝の会とする。

募金を計画し、会計を片岡ヒサ氏にお願いする。

三月三十日　五月四日の総会について、具体的な案

募金趣意書

一、研究部報告　　桜木貞美

一、(イ)現代数学入門　四・五・六・月は小林先生、七・八・九月は平野先生。

(ロ)移動法による幾何　法政高校で教えておられる土居音三郎先生をお迎えしまして幾何の教授法の実際を指導していたゞいています。昨年十月より本年三月までは移動法による幾何としてプリントにより一貫した内容をもつて従来の考え方と比較し、更にドイツ・フランスの教科書の最近の傾向を取り入れ研究させていたゞきました。この四月からは大学受験用の問題集を使いまして、今までの移動法を主としてそれを如何に応用し、実際に証明を書く場合の研究に進んで参りたいと思つております。出席するものが一人々々証明を発表してゆく様にしましたら面白い会合になるのではないかと期待しております。

(ハ)小・中・高校の算数・数学の指導について（中谷先生）。

四月……数学教育の動向と問題点

五月……小学校における数と計算

六月……中学校における代数教材

七月……小学校における図形と量

八月……中学校における図形と量

九月……高等学校数学と進学の問題

四月二十七日（第一回）昔の小学校の国定教科書を沢山持つて来て順々にみせていたゞきました。各時代のものが順々にそろえてあつて夫々自分の使つた事のあるなつかしいものでした。次にお講義としては最初の日は一般的な話をということで数学教育の動向と問題点として現在どんな風であるか。終戦直後の数学教育と学力低下の事等お話し下さいました。最後に学生の御希望で各自名前と何年卒業か、又教員をしている者

は何年を受け持つているか等、自己紹介をしました。中には大学生のお子様を持つた方又は小学一年生を持つた方、三年・四年・中学生・高校生等と全部居るので、今まで色々自分の子供について数学指導をする時困つた事等話合うのに非常に都合がよろしい。今後お講義を少しした後座談会式に各自の経験を話合つて数学指導について研究して行くことにしたいと申されました。

二、(イ) ゼミ Newman Topology、前からの続きをしていますが、新入会員を歓迎致します。

(ロ) 統　計

(1) 検定と実験計画の理論と実際（小河原先生）

三月までは、宮沢光一著「近代数理統計学通論」の第七章まで終り、四月は前の復習。

(2) 統計入門　希望者が少いのでまだ始めて居りません。

三、「幼児の数学指導に関する心理学的研究」幼児の数観念の発達について、第一回の集りを四月十八日に致しましたが、熱心な方達の御希望から生れた会だけにこれからの方針などについての話合も活潑に行われ、次回より東大心理卒の東安子氏にお出で頂き御指導御協力をお願いすることになりました。家庭を持つている方達が多いので始めのうちは月一回位の集りを持つ計画で居ります。

一、会計報告

今井チエ子

昭和三十一年度数学会会計報告（昭和三十二年三月三十一日）

収入	
前年度よりの繰越金	41,917円
終身会費	47,900
通信費	12,300
名簿代（昭和27年発行）	760
プローチ誌上賛金	14,978
懇談会賛金	3,350
寄附金	4,000
預金利子入金	491
雑収入	1,923
雑収入	500
計	128,119
支出	
講演会費	5,000円
通信費	24,132
印刷費	33,097
消耗品費	2,045
雑費	8,863
計	73,137
差引残金（次年度へ繰越）	54,982円

第二部　平野先生を囲んで

一、開会礼拝　原　美根子

讃美歌　五三四

ピリピ人への手紙　第四章

お祈り

一、平野先生への感謝の云業　中屋澄子

うまく気持を云い表せませんが、長い間古くからお世話になりましたので一言申し上げ度いと存じます。

此の度先生の御退職のことを聞いて淋しい気が致しましたが、今後も引続き一週一度お出でになるということが唯一の慰めです。

私が入学するより前から先生は女子大にいらつしやいましたがその頃のことは存じ上げませんが、昭和三年東北大を卒業されて女子大にかえつていらした時私は入学致しました。随分お若く着物に袴をつけてスラッとしてらしたお姿を今でも忘れられません。

一寸よりつきにくい印象がありましたが近付く度に親しく相談に乗つて下さり、十余年外地に居りまして引揚後、はじめて教職につく私のことをいろ〳〵考えて下さいました。その他にも卒業生一人々々のことをよくおぼえていろいろと心配をして下さいます。今でもお年をおとりになつたことを考えずに何事も御相談にかけつけては先生をわずらわせて居ります。

私たちは教室で先生から教えて頂いたことは忘れてしまつたかも知れませんが、日常の先生の御人格からうけたものは何時までも残つて居ります。先生は派手なことはおきらいなので、先生に叱られることを覚悟で昨日までこの会のことを秘密にして計画を立てゝ居りましたが、今日のさゝやかな集まりを一同の感謝の心のあらわれとして受けて頂き度いと存じます。

一、懇　談

山下タミ　立つてしやべる仕事をしていながら、このような場で、話すことは不得手で思いますことが十分に云えないと思います。ところが幸いにテーブルスピーチというものは短かい程よいということをきいて居りますので簡単に一言述べさせて頂きます。

いつも先生について考えますことは謙虚そのものでいらつしやるということです。

そしてそのことは私共が人として一番学ばねばならぬことゝ考えて居ります。その謙虚の中から流れる誠実をもつて私共の一人々々に接して頂いて居ります。この嬉しさ、この喜びは忘れないで私共が世の人達に接して行きたいと思つて居ります。

数学に学んだ又学ぶ私共がそのむずかしさを悲しんだり、折角勉強したことを忘れたと云つてなげいている一方先生の謙虚な美しいお姿に接することの出来ました幸せと喜びは私共の心の中に強くやきつけられて忘れられないことでしよう。

花岡松枝　豊泉さんから速達を頂いて平野先生は四十年女子大にいらしたと伺い、職業のユートピアとはいえない先生稼業をよく四十年もおつゞけになつたと思います。

送別会ということですが、今伺えば先生はこれからも講

師として学校にお出でになるとすれば私にとつて何故送別会をしなければならないかわかりません。生徒にとつては専任の先生も講師も変りないと思いますし、私としても先生を今までと変らずに考えて居ります。

こゝで豊泉学長の「今日の会は長い間の先生の御苦労に対する感謝の会です」との訂正。

小林先生　今日のこの様な多勢のお集まりは、数専会にとつては神武以来のことだと思われます。

数専の長い三十年の歴史の間、平野先生が一つの学風をお作り下さつたことを深く感謝致して居ります。専任からお退きになることは心淋しく落着かない気がします。しかし幸いに引つゞいて週一度出て頂けるにことは何よりと存じ先生の残された気風をうけついで育てゝ行き度いと思つて居ります。

数専会員の御協力を先生に対する感謝と共におねがいします。

宇高ちさ　昭和十八年の戦争の最中に卒業しました。学長は石原先生で当時平野先生は学監をしていらつしやいました。

大変な時代に御心労が多かつたことゝ思いますのにいつも親切に丁寧な御講義をして下さいましたのを自分が教師をして居りますのでいつも思い出され、模範としなければならない事と思つております。卒業生の一人々々にまでいろ〳〵御心配下さいまして、私が戦災で焼け出されました時も、焼跡をお尋ね下さり、行く先がなければ、家に来るようにとまでおつしやつて下さいました。

戦後教員の俸給のベース改訂の際、女高師と女子大では一号俸の差がつく筈でしたのを先生が教育庁へお出かけ下さりおかげで差がつかないことになりましたが、そんなことまでして下さる先生に感謝して居ります。平野先生なくしては数専を考えられませんのでいつまでも私共の心の光として御健康にお気をつけて一時間でも二時間でも学校へお出かけ下さいます様お願い致します。

秋本寛子　独唱　「菩提樹」

中谷先生　古い方も新しい方もよく存じ上げて居ります。平野先生共長い間おつき合い頂いてまいりました。

先生がいまゝでうめて居られた空間が急に空虚になる様な気がして心配して居り、先生が大きな存在でいらしたことをしみ〴〵感じます。これからも一同の為御力ぞえ願い度いと思つて居ります。先生が専任から退かれると残る私共は重い責任をしみ〴〵と強く感じて居ります。最後に北海道旅行を致しました折、札幌の時計台の下でうたいました「この道」を一つうたいます。

中谷先生の歌をうかゞつてうたい度くなつたということで豊

泉会長のテーブルの方達立つて讃美歌五三七をうたい、一同それに唱和。

一、記念品料目録贈呈

一、平野先生の御挨拶

片岡ヒサ

今日は皆様の暖かい御心のこもつた集りを開いていたゞき、まことにありがとうございました。先程から多勢の方が色々とお話下さいましたことは一つ一つ私には当らない事ばかりで、穴があつたらば入り度い心もちでございました、たゞ一つ花岡さんのお言葉だけは全くその通りで私も同感でございます。

実は昨日になつて始めて今日の会の詳しいことをうかゞいびつくり致した次第ですが、今更お断りするわけにも参らず、心苦しく思いながら皆様の御厚意を感謝してこゝに出席致しました。

四捨五入すれば四十年といえなくはありませんが、その間をふり返つてみますと恥ずかしいこと、後悔することばかりで、私のためにこんなに盛大な会を催して頂くことなどは思いもよらぬことで、昨夜も床に就いてから暫く自分の心苦しい気持をどうすること出来ませんでした。漸く思いついた事は、これは何の功なく、何の値なくして頂く神からの賜物——卒業生の方々を通しての神の恩恵であると考えるべきであつた、従つてこれは値するかどうかを考えるのはむしろ自分の傲慢である、これは心から喜んでおうけすべきであると思い直して、やつと心がおちつきましたような次第であります。それで今は多くの言葉を使わずに唯私の心の中の感謝の気持を察して頂き度いと思います。

数学専攻部開設について直接の御苦労をして下さつた安井先生と阿部先生が今日御存命でないのがまことに残念ですが、数学専攻部が出来まして第二年目から、こゝで私の数学の教師としての生活がはじまりました、従つて私の今日までの生涯と数専とは切り離すことができません。その間に何よりうれしく、ありがたく思つて居りますのは、数専に多くのよい先生方を与えられたことであります、よいという意味はこの学校の精神をよく理解し、この学校とこの学生たちを心から愛してその愛の故に惜しみない協力と奉仕をして下さつたことでございます。これは専任の先生方だけでなく講師の先生方も全く同じ心で御協力下さいました。こゝにいらつしやる野原先生もそのお一人です、週に一回講義をして下さる講師の方々も女子大にお出下さるのを楽しみにしておられるようにお見受けしましたが、いつも女子大はよいとほめて下さつていました。蓮池先生は、ある時どこがよいとお感じですかと伺いましたら、「こゝの生徒はノーブルだ」とおつしやいました。心の清らかさから出る気品ぢやないかと感じました。

安井先生はいつか、うちの学生は校庭に生えている雑草みたいだと苦笑しながらいわれました、がこれは躾や行儀は余りできていないが、皆が実にのび放題にのびているという意味であつたと思いますが、これとノーブルとに通ずる点もあるのでせうか。

窪田先生が御病床に就かれましてから私は毎月御見舞に伺つて居ましたが、いつもおつしやることはやくなほつて女子大の講義がしたいということでした。一時小康を得られたある日、どうしても女子大へ行つて見度いと云われたそうで、奥様に介添されて車で学校をお訪ね下さつたことがありました。これは一例にすぎませんが先生方が愛をそゝいで育てゝ下さつたのがこの学校であり、数専であります。他方で、こゝの学生や卒業生がこの学校に対して不平がましいことを云つたのを私はきいたことがありません。自分達の学校が一番良い学校だと考えているようにみえます。

母校をこんなに愛し、この学校の卒業生であることを誇りに思つている点でも他には例が少ないのではないでしょうか。

数学専攻部はもうそろ／＼三十一年ちかい歴史をもつことになります。いまその卒業生たちが夫々境遇の相違にかかわらず互に心を開き睦み合い、団結し、社会の各方面でよい仕事をしていることは本当に喜ばしいことであります。高木学長にもこゝの数学科と卒業生は特徴をもつた存在であることを認めて頂いております。

私はこの学校にお世話になつて皆様と共に今日まで生きて参りましたことを心から幸に思つて居ります。自分自身がこの学校で多くのことを教えられ、またこゝでよい友達と沢山の尊敬すべき先生を与えられましたので、私にとりましてもこゝは心の母校であります。此度退職いたしまして外の責任は軽くなりましたが、学校に対する心持は今までとちつとも変つて居りません。数学科の将来のことも心にとめてゆき度いと思います、目前の問題として四年制の大学ということがありますが、これには卒業生の協力が何より必要と存じますのでこれを推進するように皆様の力をかして頂き度いと思います。

色々、昔のことを思い出しますが、この位で御挨拶にかえさせて頂きます。

最後になりましたが御心のこもつた御鄭重な記念品を頂戴いたし、まことにありがとう存じました。

一、閉会礼拝　　原　美根子

讃美歌　三八五

一、記念写真撮影

正面玄関にて写真撮影。

終つて時間に制限のない方達は二次会、三次会と別れを惜しみ最後に引上げたのは九時頃でした。

会長挨拶

こゝで一寸平野先生に御願がございます。私共がこのような計画を致しましたにつきまして皆さんから「こんな計画をして下さいまして本当に有難うございました。何かしたいと考えておりました矢先でしたので殊更嬉しく思いました。どうぞよろしく御願いいたします」と便りをいたゞいたり、数専会だけの平野先生ぢやない、私達もとおつしやる同窓生の方々、又旧・新の恩師の方々の御一人々々の心のこもつた総意がこゝにあらわれたまでの事でございますので之等の方の御心をどうぞ御受けになつて何処かへポンと寄附などなさらず、何時迄も先生のそばにおいていただける物にかえていたゞき度く御願いいたします。も一つの御願は私共の数専会も短い此世限りのものでなく、何時か先生が仰言つていられた様に時間と共に忘れられるものでなく、永遠にすたる事のないものを求めつゝあくまで東京女子大学を母体としての同窓会数専会として生きてゆきたいと思いますので、今迄に倍して私共数専会の為に御指導下さいます様此席から特に御願いいたします。

それから此会を持つ為に公私共に御忙しい処を夜おそく迄相談したり終始緊張の中に御骨折下さいました幹事の方方、又幹事外の方々まで御手伝いたゞきました事本当にありがとうございました。一つ一つ事ある毎に団結一致して事に当る姿は実に涙なくしては見られないものであり、皆様の心と心の交流は色々教えられ、感謝でございました。

又同窓会の大津さん、鈴木さんに随分御世話になり色々御援助を戴きました事も本当に感謝でございました。

それから一番先に申し上げなければならなかつたのかも分りませんが、昇巾の順とでも申しましよう。あとになりましたが小林先生はじめ先生方には絶えず我子を労わるように積極的に御相談いたゞき、嬉しく衷心から感謝申し上げます。このような時、普通の所謂数学研究会でなく、同窓会数専会である事の意義を大きく感じます。こうして数専会も皆さんに支えられつゝ日をおうてよきグループとして伸びてゆきつゝあることを重ねて御礼を申し上げ、今後共一層の御指導と御励ましを御願いいたします。

尚高木学長先生もいゝ御計画をして下すつたと早速御参加いたゞきました。この会には御出席が出来ませんでしたが、学長先生はいつも数学科の事に就いては特別に祈りをもつていられる事を、私共も覚えたいと思います。

サンドウィッチの作り方

上田　フサ

先日平野先生の記念会の席におかれたサンドウィッチが大変好評だつたからそれの分量と作り方を記すようにと、豊泉さんからお話がありました。自分の無責任はさておきまず／＼よかつた。そんなにおいしかつたとは有難い事だとひそかに喜びました。実は当日は誠に残念乍らどうしてもお手伝い致し兼ね、たゞ紙片に書いてお渡しし、ほんの

一寸口伝したぐらいでしたのにそんなによくできたのはそれは皆様の並ならぬ御骨折りと大変性のよい御腕前の結果だと存じ伺つただけでもうれしうございました。おいしかつたのだけれど見てくれは大変よいとはいえなかつたとの事、それも豊泉さんの自称ですが、ほんとうにそうだつたのでしようか。

みな様よく御存じのものばかりですのでとり上げて申し上げることもありませんが、きつと黒いフルーツのがお気に召しましたのでしよう。あれは私も大好きで、いつもお弁当にもつてまいります。もし又何か御不明でございましたら御仰せ下さいませ。

サンドウィッチの一般的注意

⊙バターはおいしいからつけるというだけでなく、挟む材料の水分が直接パンにしみないためでもあるのです。あまりうすゝぎてはその意味はありません、挟む材料によつてバターに色々の香をつけて用います。たとえば、やさい類にはわさびの香を合せたバター、肉類には辛子を合せたり、その他玉葱やパセリの香をつけたりして用います。一枚に約五瓦、一斤を十六枚に切ると八〇瓦 約 1/6 ポンド強必要です。塗る前に竹べらか杓子でよくねり軟げて用います。

⊙パンは焼いて二四時間たつたものがよろしい。一斤のパンはお茶用のサンドウィッチには十六枚に切りますが、巻いたりするためにはもう少し薄く切ります。又お弁当は十二枚くらいに切りますが、中実によつてはもつと厚く切ります。切る場合はパンの底の方を上にして切ると滑らかに切れます。又横にして切つてもよいのですが、上から抑えて切ると肌があれます。

材料の揃え方

二種以上のサンドウィッチを組合せる場合には、味の上からも栄養的にも動物性の食品と植物性のものとを揃えます。色彩の上からも考えられます。魚肉類の焼いたものや燻製、鑵詰類、チーズ、卵等は一般的です。やさいでは芋類や他の加熱して用いるやさい類、それに生で用いるやさい、胡瓜、トマト、セロリー、レタス、クレソン、果物や木の実、その他いろ〳〵用いる事ができます。たゞいずれも必らず下味をしてかるく水気を切つて挟みます。果実類では生だけでなく、煮たり、干したりしたもの、甘いもの等よろしい。三—四種の材料の中に甘味のものが一種は入ると大変引き立ちます。

何人前になるか

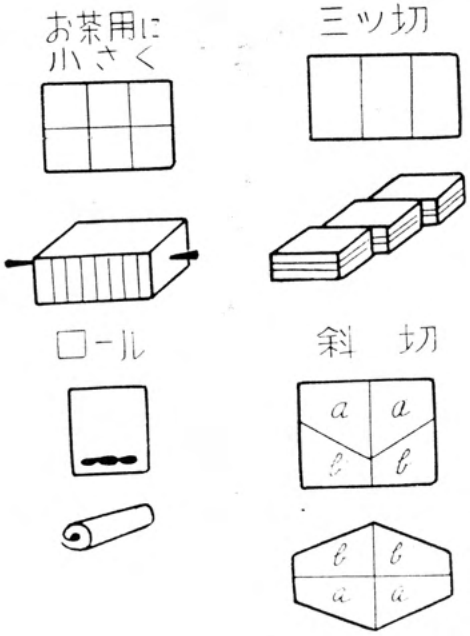
一斤のパンを十六枚に切ると八組とれる事になります。それをふつう二組で一人、都合一斤で四人前という事にしています。而し他の一緒にでるもの、その他で定まつたものではありません。

サンドウィッチは前菜にもお茶にもお弁当にも用いる便利なものですが、之れを幾種も作る時、重ねて一組にする様な場合には数を上手にしませんとはんぱになります。

形は自由でよろしいのです。お弁当には耳はついてもよいでしようし、お茶やテーブルに重ねる場合には耳はおとして盛合せを考えた形に切ります。正方形、長方形、三角形、円形、ロール形にしますが、三角形等は頂きにくいやさい、たとえばトマト等汁気の多いものによい形です。

盛る器や種類、卓の配置等考えて切ります。添物としてパセリはほしいものです、美しいばかりでなく水分保持の為です。

卓に盛つたサンドウィッチはすぐパサパサに乾いてしまうので、時間をおくときは一寸何かかぶせておいた方がよいでしよう。



当日のもの

胡瓜のサンドウィッチ

パンは十六枚にうすく切つたもの二枚づゝとつて、左右又は前後に開きます。よくねつたバターにわさびを合せまぜ、表面に万遍なくぬります。

胡瓜は洗つてパンの長さに切りたてにうすく切ります。皿にのせ塩をふり、酢をふり、次にサラダ油をまぜ合せ、かるく水気を切ります。之をパンに平に列べます。一方のパンでふたをしてしばらくおき、おちついたところで切ります。

材料	分量
食パン	1斤 16枚に切る
バター	1/6ポンド 80g
胡瓜	3本 300g
ときわさび	小 1
塩	小さじ 3/4 3g
酢	〃 2 10cc
サラダ油	大 〃 2 30cc

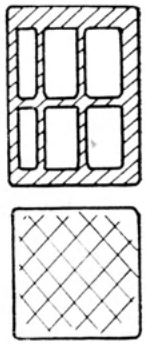
チーズのサンドウィッチ

パンは前と同じように切り、バターはそのまゝのものをねつて用います。

チーズは 1/2 ポンドの長方形を二十枚に切ります（大変器用な方は二四—三〇枚にも切れます）。

パン一組に平に列べると丁度五枚は入りますので、一斤に一ポンド、即四十枚のチーズがあいます。片方のパンでふたをしておもつかせて切ります。

材料	分量
パン	1斤 16枚
バター	1/6ポンド 80g
チーズ	1ポンド



胡瓜とチーズをかさねる場合は胡瓜の方を上にいたします。チーズを上にすると切りにくいのです。常に軟いものを上にする方がよろしい。切る際にあまり押しつけない様に庖丁を中にして、二本の指を両側におく様にします。

フルーツのリッチサンド

材料	分量
黒パン	1・⅔斤（1斤を10切位に切る）
リンゴ	1ケ～1.5ケ
くるみ	8ケ
干ブドー	大さじ 4杯 40g
ママレード	〃 3
バター	80g

パンは黒色のカロワイの香の入つたものがあいます。之には少し厚い方があいますので、一斤を十枚位に切ます。リンゴは四つ又は六つ割りにして、皮・芯をとり、横にうすく切ります。くるみは割つて刻みます。干ブドーは熱湯をかけ洗いしんなりさせ、三つをいつしよに合せます。それにマ、レードを加え、よくまぜます。之を前と同様パンに挟みます。之にはピーナツバターをぬつてもよくあいます。

ハムのサンドウィッチ

材料	分量
パン	1斤 16枚
バター	1/6ポンド
ハム	大きなもの 8枚
とき辛子	小さじ 1

バターはよくねつて、とき辛子をまぜます。

前と同じようにしてパンにぬつた上にハムを挟みます。

出席者氏名

昭・6・卒 豊泉しげ
熱田葭江
昭・7・卒 中屋澄子
昭・8・卒 森田都
寺先よし子
昭・9・卒 菅沼節
藤見ヒロ
溝口雪恵
山下タミ
昭・10・卒 池野和歌子
鈴木恂子
松崎富喜子

昭・10・卒 田中隆子
安藤寿子
昭・11・卒 鈴木成子
花岡弘枝
藤森嗣子
昭・12・卒 船橋たか
黒崎千代子
片岡ヒサ
清水静
昭・12・卒 吉利花枝
秋元寛子
多賀静子

昭・14・卒 堀すみ
森昭子
高瀬幸子
昭・16・卒 柏原淑子
宗像民子
昭・16・卒* 伊関美穂子
昭・17・卒 辻岡登志江
平井和子
今井チエ子
長井レン子
昭・18・卒 山本敏子
喜安蕗子
茂木久子
杉原博子
宇高ちさ
合田朝子
昭・19・卒 矢部桂子
原美根子
柏木寛寿美
畠山悦子
豊田ミチ
佐々木敏子
長谷川ふき子
昭・20・卒 倉田美沙
昭・20・卒 大野明子
石川英
梶井博子
昭・22・卒 吉川喜久子
昭・22・卒* 磯野桂子
大平和子
千本淳子
昭・23・卒 藤井隆子
藤井尚子
坂部礼
石田静子
窪田玲子
昭・24・卒 後藤京
三宅和子
根岸愛子
昭・25・卒 山口俊子
鎌三美沙子
昭・26・卒 湯浅多賀子
藤田淑子
昭・27・卒 小笠原祥子
石丸黎子
越原民子
津下恭子
鴨打ヨシ
昭・28・卒 小川和子
昭・30・卒 木暮幸子
佐藤伊都子
二宮久
昭・31・卒 西脇千枝
武未美佐子
昭・32・卒 大久保明子
佐藤一美
乳井則子
鈴木栄子
川合幸江
清野礼子

感謝と願い

小林薫一

この度平野先生の特集号が刊行されるに当り、同僚の一人として一言御挨拶を申上げたいと思います。それは卒業生の皆さんからは慈母の如く慕われ、親しまれ、また私どもゝその立派な人柄に深い尊敬を捧げておりました平野先生が去る三月かぎり専任教授の職を退任されたことであります。

この話を始めて知つたとき、皆さんもさだめし驚かれたことでありましよう。借しまれたことでありましよう。何んとかお引とめできないものかと思われたことでありましよう。――思いは私どもゝ全く同様でありましたが、先生の決意かたく、それはかなえられませんでした。

平野先生が本学に就任されたのは創立の年の大正七年からで、以来三十九年の長い間皆さんのために、学園のために、もつと広く日本の女子教育のために骨身を惜しまない

尊い奉仕をされてきたのであります。ことに、戦時中のあの不気味な社会情勢のなかにあつても、つねに創立の精神を忘れることなく、学生達の幸せを願い、その成長を護るために学監として尽された努力には並々ならぬものがあつたと思います。また、戦後数理科が二年課程から三年課程に復帰したときは、進んで文学部から数理科にもどられ大きな援助をして下さいましたことは今なお記憶に新たなところであります。今日卒業生の研究活動が多少とも各方面から注目されるようになりましたのも、一つに先生の御温情と高い知性によつて培われたものであることを思い深く感謝いたしておる次第であります。

人間の価値を評価するということはなか〳〵むずかしいことであります。それ〴〵の立場によつて見るところも異なりますが、大体のところ知・情・意の三要素が平衡の状態におかれていることではないでしようか。漱石の小説に「知に仂けば角が立つ、情に棹させば流される。意地を通せば窮屈だ。」という言葉がありますが事実その通りであります。この世を住みよくするためにはお互にその努力が必要になるわけです。ところが、平野先生の場合には、この三要素の平衡が非常によく保たれていることであります。それは皆さんも考えてみれば、直ぐお気ずきになることだと思います。私も本学に奉職して、かれこれ四半世紀になりますが、最初から別に一校主義をとつたわけではありません。いつの間にかこの歳月が流れてしまつたという感じであります。しかし女子大での想い出にたのしいものがあります。創業時代のわが国における女子のための数学教育に終始できたということがその最たるものですが、一つには平野先生を中心として人の和が与えられ、親しい人間関係に恵まれたことにもよるのであります。

したがつて、私個人にとりましても、このさい平野先生を私どもの学園からお送りすることは何んとも淋しい気がいたします。しかし、かくなつた以上は先生がお蒔きになつた種子がよく成長して立派な大樹となりますように努力することこそ最善の道であると存じます。卒業生の皆さんの一層の御援助をお願いする次第です。

平野先生、ほんとに長い間御苦労様でございました。心から厚く御礼を申し上げて御挨拶といたします。

（一九五七・九・二六）

平野先生と花

中谷太郎

こんな題名をかゝげましたが、何か書くようにと渡された原稿用紙を前にして、平野先生との二十余年のことをふりかえつて、まず思いついたのが花のことです。先生の花の御趣味や御来歴を知つているわけではありませんが、先生のあるところに花があることを気付きます。転々と移り変つてついに現在の部屋に落ついた数学研究室にはその時

時の花が香つてきましたが、先生の長い教育と研究の御日常はそれらの花とともにほうふつとしています。先生はほんとうに花がお好きです。

先生のお宅の庭には、四季の花がけんをきそつております。数年前の春、お手入れをされていたグリヤ、スミレ、クローカスなどを頂いて、ゆうやく、わが庭に移殖しましたところ、その翌年までは見事に咲きましたが、今日では頂いた芭蕉だけが生い茂つて、わが庭には花は育たざるかと嘆息しております。

先生のお宅にはいつもかわいゝ動物がおります。こんど飼犬が三匹の子を生みました。三匹の子犬をかゝえた親犬のみちたりた眼のやさしさ、あれを先生のところで拝見すると心から楽しくなります。

先生はまたよく山へお登りになります。数年前に乗鞍岳へおいでになり、那須、北海道、伊豆、尾瀬沼、美しが原（これは近日中）などへ教職員や学生とともにおいでになつております。その御健脚は驚くばかりです。

先生のお好きと思われるものを二、三並べてみました。静かな音楽もお好きなようです。これらの純粋な美しいものは先生の御生活の中に、よき所を得て生かされていると思います。先生は終始変らず、人はどのようにあるかということがいかに大切であるかを身を以て教えられていますが、花や小動物や景色と結びついた先生の御日常の中に、先生のお人柄の一端が深くうかゞわれるように思います。

感謝

野原博

五月四日の「平野先生を囲む会」では、思いがけなくも指命されて不用意に立ち、先生への感謝、思い出もそこ〳〵に、宣伝気が出てとんでもない話をしてしまいました。重々後悔しているところへ、編集委員の方からその速記を送られ、会誌に載せるから補そくせよとのことでしたので、あの時の話はすつかり忘れることにし、独り静かに机の前に座し、女子大当時を思い浮べて左の一文を草し、責を果したいと思います。

私が始めて平野先生にお目にかゝつたのは今から二十五年前の昭和七年四月、国枝元治先生の御推選で東京女子大学数学専攻部の専任講師として赴任した時でした。四分の一世紀前のことで記憶はボンヤリしておりますが、私の第一印象では、平野先生は安井先生のように、近代的な女性としての明るさとしとやかさを身につけておられるとともに、内面非常に強いところのある方のように感じたことを思い出します。

私は在職きわめて短かゝつたのでございますが、恩師国枝先生、阿部先生の御指導の下、一方では安井先生を母、平野先生を姉、小林先生を兄と思つて、ずいぶん我儘を申したものでした。それでもどうやら勤めさせていたゞいた訳ですが、それは私の一生忘れることのできない楽しい愉

快な三年間でした。

赴任当初の私は、その三月に結婚したばかりでした。それが妻とほとんど友達みたいな女子大生に向つて、あやしげな数学を講義するのですから全く勝手がわからないのです。しば〳〵平野先生の室に伺つては、教えを受けたものですが、先生は、その都度ニコニコされて、いわゆる女性の心理をお話して下さり、勇気付けて下さつたようにおぼえております。

当時の私は女性観と申しますと、家庭の主婦としていわゆる内助の功を致し、相手の男性を思う存分仂かせる原動力となることが、女性の最善の道であるというようなものでした。男女合して始めて世間的に一人前の仕事ができるのであつて、いわゆる共稼ぎは、外見上は二人分の仕事をしているようでも、家庭内のマイナスを考えれば、結局はマイナスであろうと固く信じておりました。又一方、数学というものが容易ならざるしろ物で、余程の天分がない限り、一寸やそつとの好きだ、得意だぐらいでは、その高嶺の花を見ることなどできるものではないと、痛感していた時でした。それだけに、数学を専攻し、それを指導教授せられつゝ、しかも一方では、家庭の主婦としても立派にやつてのけられている平野先生に対しては、心から敬意を表しておりました。それを、先生は今日まで実に三十余年もの永い間続けて来られたのでありまして、これは私にとりましては、大きな驚異であります。これこそ、信仰から生まれた先生の内面の強さでありましよう。

このように、ひたむきに学問を愛し、親身になつて後輩の指導に精魂を傾けて来られた平野先生に、直接教えを受けられた皆さんは非常に幸な方々です。

おそらく皆さんは、先生から、数学はもちろんのこと、女性としての生きる道も正しく教えられ、それに従つて現在それ〴〵の道に励んでおられることゝ存じます。

このたび、先生がお身体の都合で停年を待たずに教授の職をお退きになりますことは、まことに残念なことでありますが、なお講師として週に何回かお出かけ下さることは幸であります。在校生の皆さんは、深い信仰に生き、人生を達観しておられる先生から、数学なり、人生なりのギリギリ結着のところを授けられますよう祈つてやみません。

先生には、今後共十分にお身体をいたわられまして永く永く女子大のために御活躍下さいます事を祈り上げます。

（一九五七・九・二五）

平野先生と私

大・12・国・卒　青山　なを

今年の三月末の教授会で、平野先生が最後の教授会として退職の御あいさつをされた。低いお声が涙に口ごもられると、急に私のまぶたからも涙がながれでて、どうにもとまらなくなつた。時に涙もろくなることは承知しているが

人前であんなに泣いたこともない。

平野先生は、私がそも〳〵あのうす暗い部屋の多い角筈の校舎に通いはじめ、東京女子大学の生徒（学生ではなく生徒というのがふさわしい）となつて、代数や幾何を教えていたゞいた部屋の塗板の色などとともに、記憶の糸がたぐり出てくる方である。その頃の先生というと、安井先生の伝記の中にものせた、藤棚の下で安井先生と西島先生と三人でならんだ写真のお姿がうかんでくる。あの頃の先生は写真帳で拝見しても、武岡鶴代先生や山極弥知先生（その頃は斎藤といわれた）などと「なかよしさん」といつたお姿でうつっているのが多くて、おたのしそうだ。

いま角筈の学校のあとは、藤棚はおろか、まるであとかたもなく、地上から消えうせてしまつてゐる。沼波瓊音先生が、平野先生とミス・アレキサンダーを

「花のようにうつくしい」

といわれたことは、角筈会の時にもいつたが、こゝでもくりかえさずにいられない。当時沼波先生は国士をもつて任じていらして、今は有名になつた北一輝の「日本改造法案大綱」の最初の謄写刷をもつていらしてひそかによませたり、大川周明氏を大船の寺の下宿先までたずねにつれていかれたりされたが、しかし先生はより本質的に純粋な詩人であつた。遠くをみるような目をして、

「花のようにうつくしい」

といわれたことは、そのまゝ平野先生のお姿とともに、詩人沼波瓊音の、それこそ美しい思い出として消ることもない。沼波先生がなくなられてから昨年で三十年になつた。

つぎにうかんでくるのは、平野先生が御夫君の留学しておられるヨーロッパに旅だゝれる送別会の席である。その時は私も卒業生の一人として東京女子大学の教師の末席にいた。場所は一ツ橋の学士会館で、こじんまりしたあつまりであつた。私のむかいに、これも今はなき石幡先生がおられ、ならんで美術史の田沢先生がおられた。先年はからずも奈良の薬師寺の庭でばつたりおあいして、おふとりになつて立派におなりになつたと思つたが、当時は若々しい青年紳士でいらした。石幡先生や田沢先生の若々しいお姿に、はなやかに燈火がてりはえていたという風に私の記憶はなつているので、晩餐の会であつたのだろうか。なにゝしてもそんな光景をいき〳〵と心にとめているのは、その時耳にした安井先生と平野先生の会話が、いかにも安井先生らしく、また平野先生らしいと思われたからだろうと思う。もつともならびの脇の方にいた私にはお声が耳にのこつているだけで、先生方の表情はうかんでこない。安井先生が不平そうに、

「この人はついこの間までたまつているんですもの」

といつておられる。平野先生の御洋行――洋行という言葉のもつ感じを、そのまゝつたえるには、いま何といつたらよいだろう。――を寝耳に水ときいたのは迂闊な私ばかりではなかつたらしい。「なんて水くさいのだろう。はなせ

ばいろ〳〵便宜をはかつてあげる事だつてできたろうに」とでも思つていらつしやるらしいとがつた口ぶりである。

また安井先生のお声がする。

「イタリー（港の名前をいわれたのかもしれないが、それは忘れてしまつた）は人気の悪いところだから、女の一人旅でイタリーに上陸するのは危険よ」

と心配そうにいつておられる。それには平野先生が、

「大丈夫です」

といつたように答へられた。落付いたお声で、低いけれどはつきりと覚悟をしめし、短いけれどたのもしげな度胸を、不敵にしめしていた。

「御主人がむかへにきて下さるのならいゝけれど、連絡をよくとるように」

私の記憶の画と声はこれだけなのだが、このなかに安井先生と、平野先生と、そのうへお二人の間の空気のようなものが、あざやかにうかんでくるのである。

安井先生がなくなられてからのことである。女高師で平野先生より一、二級上だという方にあつたことがある。その方がいわれるのに、

「あなたの学校ができる時、安井先生が私に是非くるようにといわれたが、おことわりした。安井先生は尊敬しているし、好きな方だが、しかし自分が先生の下で仂くことになれば、きつと喧嘩すると思つたからである。先生との間をきづつけたくなかつたからおことわりしました。その後平野さんがおいでのことをきゝました。」

と。一方からの話で、真偽のほどはしらないし、知ろうともしないですぎてきたが、いかにもその人らしい話だと思つてきいたことだつた。性格も、自信も、覇気も強いらしいこの方が、安井先生を相手なら喧嘩ごとがおこらないとはいえないと思つた。この話は反射的に安井先生の下で長い間仕事をされた平野先生を偲ばせ、先生らしさをあらためておもわせるのであつた。最近の会合の席で、平野先生は本来は数学ではなく、物理学を専攻なさるおつもりだつたといわれたと、その会に出席しなかつた私にきかせてくれた人があつて、一層深い感概にさそわれた。

平野先生については一つ重大なことがある。それは私が安井先生の伝記や、学校の歴史をまとめようとしていた間に知つたことなので、他言してもよいかどうかと思つていたが、同窓会の平野先生御退職記念のあつまりの席上で、私のいわゆる重大なことを、石原先生が、先生の立場からおつしやつたので、私の懸念はその時から霧散したのである。同時にそのことの重大性を証明されたように思つた。前おきがもの〳〵しくなつた。こまかい言葉まで覚えているとはいえないが、大事な事柄の陰翳は間違はないつもりである。安井先生がつぎのようなことを書いておられた。

自分が学長を退職するについては、学内の万般を承知している平野さんに学監を依頼したい。平野さんはあ

いう人だから、極力辞退して承知しないに違いない。また平野さんのためにはよいことかわるいことかわからない。当人のためを思つたらさけた方がよいかもしれない。しかし学校のためには、平野さんにひきうけてもらうよりほか仕方がないと自分は考えた、と。

安井先生が退職されて、石原先生が後任学長としておいで下さること、同時に学監は平野先生がおうけ下さること、そうした重大な決定がはつきりした後であつたが、安井先生はまだ学長の地位にとゞまつて、引つぎの時をまつておられるというころ、昭和十五年の夏をかぎりに私は東京女子大学の教職を去つて、主人の転勤先の関西にうつつた。東京にかへつた時は戦争の最中であつたからひきつづき家にいた。敗戦後ふたゝび学校に戻つて、つく〴〵と戦争中の学校の困難さを想像したことであつた。話にきいてもその場に居あわさない者にはわからないことであろうと思つた。そのうち安井先生の手記された以上のようなかきものを眼にしたのである。

平野先生が東京女子大学に御関係あつた間中で、先生の最も御苦労の多かつた時代を、私は完全に知らないですぎたわけである。先生からはその間の御自身のことについて、一ともうかゞつたことはない。私もまたこれからのちも、あえて先生に問うことを不遜として、控えることであろう。

しかし、安井先生のかゝれた文書を目にした後は、学監の任につかれ、その仕事をされておられた間というものが平野先生にとつて、どういう時であつたかを、お察ししないではいられなかつた。同時に、私達に対すると同様に、平野先生に対して、無遠慮に無愛想に、ものをいわれることがあつたにしても、また私達に対した場合と同じように、安井先生がどんなに平野先生を理解し、同情し、また信頼しておられたかを思わずにいられないのである。美しい関係である。

平野先生は。そして私もその点では同様で、とくに親しみをあらわすでもなく、不即不離といつても言葉の方が強すぎるように、自然におかれたまゝの接触で、東京女子大学という一つの場所の中で、前後三十餘年の年を送つてきた。今になると、私が教えていたゞいた専任の先生は、平野先生で最後となつた。思えばいかに長い年月であつたことか。その間に安井先生もなくなられた。荒川先生も。石幡先生も。東京女子大学に献身されたこうした方々を知る人もすくなくなつた。角筈の校舎の屋根の傾斜や、芝生の色や、小山のあづまやからのながめ、荻窪のはじめの頃のすゝきの波など、説明ぬきで昔の話の通じる人は指おりかぞえるほどに少数になつた。学生とまきれるほどお若かつた平野先生が、還暦もすぎられた。その御生活の静かな足どりが、時々の学校の思い出につながつて目にうかぶ。学校の苦難の歴史、生みの苦しみの数々が、先生のお姿をよみがえらせてつながつてくる。そしてやがて生涯の終も近

ずこうとする私の一生を思つても、遠いような、近いような思い出の数々が、先生の歩みや、学校の歴史につながつている。

私はついさつき、先生との関係は不即不離といつても強すぎるといつて、淡白さをあらわそうとしたが、こうして静かにかえりみると、私の歴史、学校につながる私の生涯の思い出の中に、いつか平野先生のお姿がうかんできて、忘れようにも忘れられない結びつきのある方になつていることを知つて驚いたのである。先生につながる私の思い出は、今まで書いてきたように、どれをとつてもいゝがたい深さをもち、またうつくしい。私の生涯を美しく静かに色どるものになつてゐる。

教授会の席上で、あれを思い、これを思い、私の涙は歔欷にさえもならうとしたのである。いま私は歔欷にまかせて大声をあげてなき、涙のかきりをながしてみたかつたと思つている。うれしいのでも、かなしいのでもない。おそらく、そうした美しい時は、めつたにないことを知つていて、その美しさの中に身をゆだねようというのであろう。こうした感動の思い出だけからでも、私は平野先生を忘れることはできないであろうし、また先生に出あつたことを幸に思うであろう。

（一九五七・九・二〇）

無題

大・日・英・卒　天達文子

昭和十五年の秋だつたと思います。或る日安井てつ学長に本館ロビーの小面会室に只一人呼びこまれました。私が母校の英語教員として迎えられて五年目でした。安井先生のお話の趣旨は御自分は引退なさることになつて、石原謙先生が東北大学から来られることになつている。男の学長ではいろ／＼お困りのことゝ思う。ついで婦人の学監を置きたいと思うが、石原先生の御意向もあり、平野雪枝さんをどう思うかということでした。「結構と思います」と云うが早いか安井先生は嬉しさの余り「そう！　そう！」といつて立ち上つてしまわれました。正に雲雀が天高く囀るのに似ていました。

安井先生はなぜそんなにお嬉しかつたのでしようか。何といつても廿六年間育てられた女子大を去られる淋しさは、平野先生という学監を得て、これで女子大の将来は安泰という御安心で補われて余りあつたのではないでしようか。

平野先生は創立の時、安井学監がお茶の水から連れていらした方であり、数学の御授業以外に教務もおやりになつていて、私共初期の学生にとつては、若い、上品な、きれいな、頭のよい先生でしたが、安井学監にとつては文字通り片腕でいらしたわけですが、私思うに安井先生の平野先生

に期待していらした点は他にもあると思います。それは平野先生のもつていらつしやる官学育ちの礼儀正しさとキリスト教の愛の精神の結合と云う点ではないでしようか。

私はよく常識はずれのことをしていろんな先生から叱られる質ですが、安井先生から次の事を云われました。「自分は東京女子大学の学風として官学の礼とミッションの愛の精神を兼ね備えたそういう人間を作りたいと思つている」私の志はよいが、礼を欠く点を叱つておられることは解るのですが、さてそれでは安井先生の理想的人物は誰かと、ひそかに同輩の卒業生の間を思いめぐらして見るのですが仲々思い当りません。それをこの頃になつて、つまり安井先生が逝くなられて十一年、平野先生も専任としては御退職になつたこの頃になつて漸く、安井先生にとつて、平野先生が一番それに近い方であつたのではなかろうかと考えます。

平野先生は官学のお出で、ミッションではありませんが、実にすぐれたキリスト教の家庭にお育ちになりました。割合早くお亡くなりになつたらしい父上は著名な牧師さんであられましたが、いつか明治何十年かに石原謙先生が小樽を尋ねられた話を、父上の日記を通して、平野先生が話されたことがありますが、私はその周到な手堅いお話しぶりに感心すると共に、そういう日記を書かれた父上は実に秀れた方であると美しく感じました。母上も実に優しい、可愛らしい方であつたようです。特にその母上を最後まで看取られた先生の至れり尽せりの御孝心ぶりには感服の外はありません。妹さん、光静枝さんときたら傑作です。私が女学校の時二年程上で高等科に来ていらしたらしい静枝さんは静かな少し御顔色の悪い方でした。それが卅年経つて空襲下の省線の中で会つた時はYWCAの総幹事で、活潑な機智に溢れた、はつきりした顔立ちをして御自分のモンペ姿のことで電車内のYWCAの御仲間を笑わせていました。私でさえ笑えなくなつたその頃、この豪快に笑う人を私は奇蹟のように頼もしく眺めるのでした。終戦後いち早くアメリカへ謝罪の旅に出られた植村環先生の後を追うようにして、光静枝さんも二度もスイスの方の会議に行かれたようでした。その間私が御願いして女子大で話していたゞきました。そのキリスト教信念の深さに心を打たれました。こういう人が一緒に日本を負つていつて下さると非常に頼もしく思いました。不幸にして間もなくガンがこの人を天国に運び去つたのですが。

どうしてこの人はこうも立派になつたのでしようか。私は平野先生がお育てになつたような気がしてなりません。現に平野先生が東北大に御遊学の時は静枝さんも一緒にお連れになつています。静枝さんの死後、平野先生が静枝さんのために設計されたその御部屋の余りにも隅から隅まで愛情とお頭のよさで満たされているのを見て、先生がお育てになつたという私の直観も当らずと云えども遠からずと思いました。お年は五つ位しか違つておいでにならぬよう

でしたが。

× × ×

次に平野先生に叱られたお話。

「あんたは云わなくてもよいことまで云う。それ又云う！」これが一つ。これには弁解の言葉もなし。「あんたは妹を買い被つてる」とこれが一つ。但しこれはどうでしようか、妹さんに関する限り、第三者の私の方があつてるかも知れませんよ。

× × ×

このおとなしい謙虚そのものゝ平野雪枝先生も犬のことになるとおそろしく鼻息荒く、しかもどうかと思う程貴族趣味です。私の家のが拾い犬とわかると急にそり身になり「うちの犬は……」というわけで長い系図をきかされます。いつか御宅に上つた際、御主人から一時間近く愛犬カロが疎開の途中失踪した顚末を伺いました。そこへ帰つていらした雪枝先生、まさかもう犬のことでつけ足すこともおありになるまいと思いましたのに、「可愛いゝのよ、こういう格好してね」とチン〳〵して斜めに見上げる犬の真似をなさいました。

おのずと光る先生

大・11・実・卒　林　とし

あしかけ三年がゝりで、やつとのことで料理の本を書き上げ、出版も終り、重荷だつたこの仕事から解放されて、この秋には、久しい間の念願だつた京都に行き、共に料理を学んだ友人達にこの本をおみやげとして持参し、昔変らぬ落ちついた古都の秋色を満喫して帰つて来ました。戦前の十数年を送つたこの京都に、はじめて行つたのは学生の時、大類先生、平野先生に連れられて国文科の方々が主だつた修学旅行でした。大類先生の深い御研究と行きとゞいた御心遣いとで、又とないよい見学をさせていたゞきました。先ず一番はじめに大丸の屋上に上つて、京都全体を一望のうちに眺め、大方の位置を頭に入れてから、三条小橋の宿屋をねじろにして方々へ、今のバス旅行と違い、のろい電車で、車中では大工さんまでがやさしい京都弁を話すのが不思議に思えたりして、あとみな歩いたようでした。一度は妙心寺、仁和寺から高尾道をかなり歩いて、余り人に知られてない泉谷の尼寺を訪れた時など、老尼様から心からの歓待をして頂き、お弟子様が精進五目を作つて御接待され、この年では再び逢えないと仰言られて涙のお別れをした事もありました。一日、八瀬、大原に行き、寂光院では谷を見下す方丈に通されて、尼様から平家物語の大原御幸の絵巻物を見せて頂き、暗記するようにこれを読んで下さいました。話の中で、私共と同じようにその頃は袴をつけていらしつた当時の光先生をば「先生はおのずと違いますなあ」と云われて、出しやばりの私達生徒はともすれば、静かに控えていらつしやる先生をば、無視しがちな非

礼をとがめられた思いだつたのを忘れることが出来ません。帰校後、大類先生は廊下にはり出した旅行絵の中に、この有様を描かれて「おのずと光る先生の御徳」と註をつけ、後光がさしているものでした。

平野先生はこんな風に、目立たないうちに、しつかりと御自分の持物として、私共の学校を生涯見守り続けて下すつたのだと、私は私なりに解釈して、深く感謝して居ります。前の学報に先生のお書きになつたものと一緒に出ていた角筈時代の先生方と御一緒のお写真を拝見して、今さらにあんなにお若い時から私共生徒はもつとふけてるように考えていましたが、今に到る迄、終始一貫母校にふみとどまつて下すつたのだと貴く感じたのでございます。開校式の大きな写真はもとより、才一回の玉川遠足、日光中禅寺へのはじめての一泊旅行、新渡戸先生のお宅へ全校がお招ばれした折等々、どの記念写真にも、先生のお姿のないものはありません。入学試験のはじめから、卒業の時に到る迄、安井先生と平野先生このお二人だけは四年間、学校ではもとより、寮監として寄宿舎に迄も私共の身近にいつも変らずにいらして下すつた事は四十年経つた今にして思いますと、その御苦労の程をしみ〴〵と感じるものでございます。又これは安井先生にとつてはどんなに力強い協力者でおありになつた事かと安井先生のお喜びだつたお心もお察しする事が出来るようでございます。

私は実務科一部に席を置きましたので、予科で数学を教えて頂いた上に、本科になつても、四、五人ひとクラスで、商業算術を先生にお習いし、珠算まであの大玉の算盤を動かして教えて頂きました。今私が近頃の四つ玉のそろばん迄も使えるのは一家で唯一人で得意のこともありますが、あの時のクラスの方達の事を思い出すと、今の数専の方々と比べてどんなに先生をなやました事かと冷汗の出る思いがいたします。

一昨年春、先生の還暦のお祝いを機会に、角筈会を開いて、角筈の校舎に学んだ者達が当時の先生方をお招きして一日、盛んな会合をいたしました。お当番の一人だつた私はその折りに最近の先生に度々お目にかゝり、又お宅にも伺つて、昔変らぬ先生の御生活にふれる事が出来ました。御主人の御趣味も加わつてこまかなところに迄行き届いて設備されたお住居や、お庭を拝見させて頂き、その上、あのテリヤ犬をだき上げて愛撫されるおやさしいお姿の平和な事、ほんとに嬉しうございました。

ともすれば孫のお守りなどに心をうばわれて老い込みがちな生活をして居りますが、平野先生はじめ、親しくお教え頂いた多数の先生方が今も尚御健在で、それ〴〵の御専門の道に御精進していらつしやる御姿を拝見いたしますと、いつまでも昔の通りの若々しい心を以つてたゆまず努力し、勉強しなければいけないと教えられているのだと深く感じるものでございます。

先生から、長い年月に受けましたはかり知れないお教え

に対して心からの感謝を少しでもあらわしたいものとの日頃の思いをこめて、このたど〳〵しい拙い文をあえて書かせて頂いたのでございます。

怖かつた平野先生

大・15・英・卒　高見沢　潤　子

三年程前、高木学長の歓迎リセプションに私は名誉の招待をうけた。そう〳〵たる教育界の偉い先生方にまじつて、同窓会の一人として私は末席に小さくなつていたが、司会をしていらつしをる小柄な洋装の老婦人は一体どなたかと思つて隣席の先輩にきいてみた。

「あらいやだ、平野先生じやないの。ほら光先生よ」先輩はあきれたように私の顔をみた。

勿論光先生が平野先生になつた位は知つていたが、随分学校に御ぶさたしている私は、あんまり変つておしまいになつた先生にびつくりした。私の学生の頃の光先生は、すらりとして大柄な、目鏡をかけて長い袴をはいた、いかにも先生らしい威厳と清潔な美しさをもつた先生で、正直にいうと私には何か近より難いものを感じて怖かつた。終戦直後おあいした時は和服が洋装に変つてはいたけど、まだがつちりとした大柄な先生らしい怖さは残つていた。しかし此の時はそれからぐつとお変りになつて、先生というよりお母様というような今までにない暖かさが感じられたのは、やはりお年かなと、嬉しいような淋しいような気持だつた。

私が学生の頃は、英語専攻部は予科一年、本科三年と別れていて、光先生は予科の数学を教えていらしたが、私は女学校から予科に行かずにいきなり本科にとびこんでしまつたので、残念ながら光先生には一度も教えて頂かなかつた。

しかし光先生というときつと思い出す一つのことがある。それは、何のためか、何処であつたか、わすれつぽい私だからはつきり覚えてなかつたが、とに角、東京女子大主催で音楽会をやつた時である。演奏者もクロイツァーか誰かとに角向うの人で有名な音楽家であつた。私は一高の学生だつた兄やその友だちに切符を売りつけた。当日は大盛況で大変な混雑であつた。私は会場係を仰せつかつて客を案内していたが、大勢の人がぎゆう〳〵ずめに後に立つていた。私はのぼせ上つてしまう、女子大の生徒を立たせては他の客を腰かけさせたが、それでも沢山の人たちがおしあつて立つていた。

「切符を売りすぎやがつて、これで金をとるなんてふてえぞお」

きこえよがしにこんなことをいう青年もあつた。おくれて来た兄や兄の友だちも噴慨してその時渡してくれる筈の切符代をとう〳〵くれなかつた。私は困つてしまつた。受付には怖い光先生が切符や金の整理をしていらつしやる。私

は思い切つておそる〳〵そのことを云いに行つた。

「仕方がないわね。こつちが悪いんだから。」

私は思いがけない優しみのある言葉を先生からきいてほつとした。

卒業してから先生と個人的に口をきいたのは終戦直後で、すでに平野先生になつていらしした時であつた。その頃私はYWCAの新聞に連載物を書いていてYWCAにはちよい〳〵用事があつたのだが、子供が小さかつたし、仲々家をあけられなかつたので、よくその用事をなくなつた光先生――日本YWCAの総幹事をしていらした平野先生の御妹様――にお頼みした。光先生は平野先生のお家に一緒にいらして、上荻窪のお宅とその頃の私の家がすぐ側であつたからである。光先生は殆んどお留守で、大低平野先生が出ていらして私の原稿をうけとつて下すつたり、私の用事をきいておいて下すつたした。先生は多分私がもと女子大の学生だつたなどとは気がおつきにはならなかつたと思う。私も餘計なことをいうのが嫌いなので、黙つて、只あの頃のすらりとした和服に袴姿の光先生をしのびながら、やはりあの頃の威厳と怖さは残つているなあと思い、お願いするのに気がひけた。

しかしもう大丈夫だと思う。お母様のようにやさしく感じられる、小さくおなりになつた平野先生に、私は心から親しみを抱いてお話が出来ると思う。そして、そんな時を持ちたいと思う。

平野先生のこと

大・15・高・卒　落　合　かつ

若い数専出の方からの御注文の「お若い頃の平野先生の横顔」――若い卒業生の方達にとつてたしかに一番知り度い事に違いない。

いつも地味な着物にキチッと長い袴をはかれ、お袖に手を添えて黒板にきれいに数字をスラ〳〵と書かれた先生は、今の洋装の先生を見訓れた方にとつて想像がつかないかも知れない。私達のお習いした頃の「光雪枝先生」はお名前の通り、清楚で優雅な中に数学者らしい理性をつゝまれ、数少い同性の先生の御一人として常に輝かしい存在であつた。

此間、同窓会の後「先生をお送りする会」に出席された村瀬幸子さんがスピーチで開口一番「先生にお怒でした……」芸術家らしい情熱を以ておつしやられた素直な表現に、皆笑い乍らさこそとうなずかれた。

数学は小学校で怠けたのが祟り、後々まで遂に苦手で終つた自分にとつて、数を自由にこなされる同性の先生に近寄り難い敬意を捧げ、教壇以外の先生に親しく接する事がなかつたので、仮りにも「先生の横顔」などとはおこがましい事であり、無資格者でもある。たゞ、今日本文学科四年に在籍する長女が入学式の時伴いて、久し振り戦後はじめて女子大の門をくぐり、感無量のことが幾つかあつた中

に最も大きな驚きは、平野先生となられた先生が一クラスの担任の先生として立たれた時であつた。スマートな洋装にきりつと身をかため、入学生だけで講堂を占める程の昔と違つた女子大の大きな機構の中にしつくりと合つた先生のお姿を見付けた事である。昔と少しも変らない、むしろお若くさえなられたような先生の活動的なりゝしいお姿を大きな喜びをもつて拝したことである。

あれから四年、今度急に御退職と伺い、此間会で親しくお話しても少しも「老い」を感じられない先生をお惜しみする念しきりである。まだ学校には講師としておとどまりになられるし、女子大の歴史と共に生きられる貴重な存在の先生がいつまでもお元気で、学校を見守つていたゞき度いと念じている。

平野先生の横顔

大・12・国・卒　小塩れい

「雑草の中のやまとなでしこ」――古めかしい云い方ですが、その頃の私共と平野先生とのありようでした。

やわらかいおぐしを一寸前髪をふくらし加減になさり、縞銘仙のお揃いをよく召していらつしやいました。青みの勝つた紺のお袴を長く、それに真白い足袋、じみなはなおのお草履を音もなくお履きになつて……。

もう私共も単なる女学生ではありません、肩上げのおろしたてにアイロンをかけるというような細工もしらず（肩上げをとるのは大人のしるし）、きびしい封建性のからからぬけでて、青空に羽ばたく思いのものばかり。

「ねえ、せんせ、これ　ちつとも　わかんないのよう」といつたような質問のしかたをする無礼なセイトもあります。幾何の説明を長々として、どうも怪しいと思うと、「モトイ！」なんどと自ら号令をかけてやりなおしてる豪勢なのもいます。髪の型も専売特許、自分で考え出したかたちを結つて真似するなんぞは金輪際御法度（ハット）の不文律。

そんな中を、高等師範を去年かおとゝし出たばかりのお若さ乍ら、おそれるでもなく、気負うでもなく、又しいて愛敬をふりまくでもなく、ごくすなおな自然なしせいで歩いていらつしやいました。

「おのずから光る先生の徳」。

京都見物に行つて、何かを拝観のとき、生徒と同じあつかいにみえていたのに、案内人に「センセ、前へおいでやす」といわれたとかで、おみやげの戯画に大類伸先生のつけられた註でした。先生の旧姓光にかけて。

そう、ボーン・クリスチャンであられる先生には、おのずから光るものがありました。ほの〳〵とした「あたゝかさ」、しみ〴〵とした「なぐさめ」、それが光先生のもつ「味」でした。

先生をほんとにたのもしく思つたのは、あの角筈の寮隣の煙草専売局が、大雪の日だというのに恐ろしい勢でまるやけになつた夜でした。

「火！火事！」。三階の屋根裏にねていた私は小さい窓に映る真赤なものをみて、とび起きました。いそいで着物をきました。丸帯をお太鼓に結びました、しかし学生である本分を忘れてはと、その上に又袴をはきました。手早く行李をしばつて、ふとんをつゝみ、いつでも窓から放り出せるように、室中の荷物を窓の側につみ上げて、みんなガタガタふるえ乍らその傍らで坐つたり立つたりしていました――同室の面々小川マリ子さん、湯浅宣子さん、鮎沢フク子さんなどのお顔が目に浮びますが、記憶のズレがあるかもしれません――そのとき、湯浅（現　岩垂）さんは長いたもとに南京豆をいつぱい入れて食料の準備までなさつていましたつけ。とにかくみんなガタ〳〵、ガク〳〵。いつてることばも何が何やら判りません。そのときです、階段を息せき切つて駈け上つてきて下さつた光先生、こゝろもち青ざめたお顔をきつと上向きに私達をみ上げて、

「おしずかにね！」たつたひとこと。

そのうれしかつたこと、たのもしかつたこと！――。

雑草（あらくさ）に混じるたゞひともとの「なでしこ」の面目でした。

（三十四、五年前のおはなし。）

（一九三七・一一・一四）

平野先生が光先生であつた頃

昭・2・英　村瀬幸子

道の片側は一めんのチューリップ畑でした。四月の半ばごろだつたと思います。私は光先生と御一緒にあるいていました。どんなお話をしたか、――全然おぼえておりません。何かすが〳〵しい、やわらかい光線につゝまれて木立の畑がどこまでもつゞいている道を歩いていました。先生は袂の着物に羽織、そして長い袴をはいていらした。私は黒つぽい銘仙の着物で少し短い袴をはいていました。先生の白い足袋と私の黒靴とが、揃つてすつ〳〵と前へつき出てゆく。私はきつと下をむいていたにちがいありません。それなのに、はるかの地平線は緑の木むらの上に綿雲を浮ばせて、きれいだなと思いました。今の学校の周辺からは想像も出来ない武蔵野の風景でした。

光先生の思い出という題で書くならばこれだけです。その「これだけのこと」が、三十何年もたつた今もまだ、まるで額縁にしきられた絵のように、私の目の前にあざやかに見えるのです。たしかにこれは、学校が一人の生徒に贈つてくれた美しい絵でした。始めて、先生を教壇の上でなく、身近に感じたということは、何と云つたらいゝか、言葉に現わすことの出来ないすばらしい授業でした。

これで私が、むずかしい数学が急にお得意になつたとでもいえば一つのお話になるのでしょうが、それは残念乍ら

「いゝえ」でした。私は相変らず出来の悪い生徒でした、本当に残念乍ら……。

後に私が芝居をやるようになつた時――この演劇も学校で始めて識つたのです。その他、学校はいくつもの始めての事を女学校では決して得られなかつた事を私に教えてくれた事でしょう。――光先生の幻像は何べんも私の導き役となりました。「キューリー夫人」を上演した時、静かな、そして理知的な面影は先生がモデルでした。どなたも御存じの「青い鳥」の光の精、行きづまつた時、先へ進む力を与えてくれる光の精のかがやく眼は私の場合、しば〳〵先生の水晶の露のような眼鏡のうちにありました。

これは私が勝手に自分の内にしまいこんでいる光先生なのです。先生は勿論ごぞんじありません。求められるまゝ、ついセンチメンタルな昔の女学生の作文をお目にかけてしまいました。

無題

昭・11・高・卒　丸山　キヨ子

平野先生が御退職のこと伺をつた時、余り突然の事でしたので耳を疑わずにはいられませんでした。そうして、それが事実になつた時、何か淋しくてたまらない様な気分に襲われてがつかりしました。御停年でいらつしやるのかしらと思いましたが、そうではなく、御眼がお悪い為と伺つて一層淋しく感じました。先生と女子大とは、そんなに簡単に御縁が切れるものではないと思い込んでいた為でした。ですから十月の昼食会で、先生が名誉教授の称号をお受けになられるという御報告を伺つた時には、それは余りにも当然のことであるにも拘らず、暫く閉されていた心が開かれた様な気がして、心から悦ばしく思いました。これから女子大の最も重大な行事にはいつも先生は御加わりいたゞいて、学園の悦びも悲しみも共に分つていたゞける上思うと、考えただけでいゝ様のない安らぎを覚えます。

× × ×

私共が入学した頃の先生は、恐らく私共などとは年令的には余りお違いにならなかつたのではないかと思います。髪も少しも白くはおありにならなかつたし、地味な、然し清楚な和服をお召しになつておられて、私共は高等学部の数学の授業を受けたのでした。お若くても一種の風格を備えておられた先生に、高等学部一年といえば当時学内でも一番のんびりしていた学生であつた私共は、時々やんちやを云い、その頃名物のお散歩にもよくお誘いしたものでした。先生は、御自身特に講義などはきちんとなさる厳しい態度をお取りになつていらつしやいましたが、そんな時には、私共のやんちやぶりがおかしくてたまらない様に笑われ乍ら仲間に加わつて下さいました。

先生が洋服になられたのは戦争直前のドイツ留学からであつたと思います。ドイツから御帰りになつた先生は、紺

のスーツに純白のブラウスをお召しになつておられました。そうしてそれが又清らかな美しさをもつて、私共の心に深く刻まれたのでした。

戦争が終りに近ずく頃、私は卒業後手伝わせていたゞいた女子大の持設科を去つて仙台の大学に行きましたが、其の間学監としてお骨折になられた先生の事は、誰方かゞお書きになる事と思います。終戦後再び女子大に戻つて、久しぶりに先生に接した私の一つの驚きは、先生の髪が白さを加えられた事でした。自分がいなかつた間、先生方がなさつた御苦労、特に平野先生の御苦労の一方ならぬ事を知つて心打たれたのでした。それだけに戦争の混乱が去つて漸く平静に戻り、学問も真に充実した歩みを進め出した途端に、先生の御退職を耳にしなければならなかつたのは大変な打撃でした。併し、先生は講師として数学科の講義は続けて下さつておられますし、此の度は名誉教授として前よりももつと広い、高い立場から、学園全体の歩みを見守つていて下さる事を思う時、満足しなければならないと思います。

学生の時には、優しく美しく併し犯し難い威厳をもたれた先生として、只々尊敬しお慕いしておりましたが、特設科に関係し、日本文学科に関係して、学内に仂く者末席に連らせていたゞく様になつてから、移り変る学園の中に、深々と堪えられた淵の様な静けさをもつて、学園の良心としての存在を一貫して保つておられた先生を折毎に痛感させられて、深い感激を覚えずにはいられない様になりました。特設科に対する深い暖い思い遣りを寄せて下さつた先生、卒業生の進学を誰彼の別なく心から悦んで送り出し、離れていても目を離さずにいらして下さつた先生、特に戦後学園の疾風怒濤時代にも身を以つて正しい在り方を指し示し続けて下さつた先生にどんなに励まされたかしれません。

先生が早い時代に女性の身で東北大学に入学され、其の後もドイツに留学されて女子の学問の道への門戸開放をなしとげて下さいました事は、後進の者達へのどんなに大きな励ましであり、又希望であつたかしれません。併しその様な学究としての御生涯を貫かれたのと同時に、見えない所で、先生は決して主張されませんでしたけれど、正しいものと邪なものとをはつきり峻別され、常に正しいものへの情熱を燃やし続けていらして下さいました事を知り得ました事は何にも増さる貴い賜物として銘記させていたゞいております。此度、数専会の方から一こと先生の思出を綴る様に云われ、其の任でもないのに責を果させていたゞきましたのは、この様な先生に対する感謝を申上げたかつたからでございます。

先生どうぞお弱いお眼を労られて健康を保たれ、これからも尚峻しい道を歩んでゆかなければならない学園の行く手をいつまでも見守つていらして下さい。

（一九五七・一〇・一四）

無題

昭・6・数・卒　三木　隆

数専卒業生の変り種私は数学を離れて廿数年遠い存在になりましたので平野先生について何か一筆と思いましてもやはり現在の立場に於てという事になつてしまいます。

キリスト教のキの存も知らなかつた私が女子大に入つて始めてそれに触れ、幾多の苦闘を経て遂に三年生の春求道の決意に至り、それ以来一目散に歩み出し、又走り出し、遂に今日この道に生命をかけるものとなりましたが、若し私のこの信仰生活の途上に平野先生（当時数専でたゞお一人のクリスチャンの先生でしたから）がいらして下さらなかつたらどんなに淋しい事であつたでしようか、又進度に支障を来していたかも知れません。

私の学生時代から母校にとゞまつている間も否、現在に至るもなお私の信仰の成長をいつも見守り、心から喜んで下さり励まして下さつた先生は安井先生と平野先生でした。私が母校を辞し献身しました時、安井先生が御健在であつたらしみじみ御話したかつたのにと思いましたが、平野先生には今なお御話申し上る事が出来、伝道者としても他の伝道者の方々とは大分異つた行き方をしているのですが、それをもよく理解していたゞいて励まして頂きます事は微力な私にとつてどんなに有難い力強い事でございましよう。そして此頃真に潜越な言い分ですが、先生は何と云う素直な御性質でいらつしやる事でしようかと今更の様に発見して敬服を深めさせて頂いているのです。私は私の道で十分な御恩返しをさせて頂き度いものと思つております。

平野先生

昭・7・数・卒　飯田悦子

なつかしい学園を去つて二十五年、それ程に年をとつたとも思わないのに、いつの間にか頭に白いものがちらつき始めてびつくりする今日この頃です。

去る三月平野先生がお辞めになりましたとか、お眼が悪いとか伺いました時は何とも言えない淋しさにつき落されたような気がしました。思えば二十五年の昔、文検を受けるといつては何時迄も先生のお手をわずらわせました。又卒業して就職はしましたものゝ、下宿もさがせない私は早速先生のお言葉に甘えてお世話になつたり、今思い出しても恥ずかしい程先生には人一倍御迷惑をかけた私でした。学校をはなれ東京を去りましても、いつ迄も忘れ得ぬものは先生の温顔、学問に対する限りなき情熱、生徒に対する深い愛情でありました。年のせいか数年来先生やお友達に会いたくてたまらなくなるのでしたが、現在の環境を思いますと時上京など思いもよらぬことでしたが、今秋はからずもその機を得、先生やお友達に会うことができました。お顔を見るまで心配でたまりませんでしたが、先生はお元気で、信仰と学問に益々輝きを加えられ、全く円満なる人格者として、又学者として若い後輩のために心血をそゝいで居られるのでした。細い所までよく気をつけて下さる先生、いつも誠実を以て接して下さる先生をもつ私共は本当に幸であり、又このような先生をもつことを数学部の誇りであると思います。

平野先生特集号に

昭・7・数・卒　樋口千嘉

平野先生が女子大の専任の教授をおやめになると学報で拝見した時は何だか一寸心細い淋しい気がしたのだけれど心の底では先生と女子大は切つても切れない鎖で連らなつていらつしやると安心した様な気がしているのは私一人だけだろうか、少くとも私にとつては学校は先生を通して考えられるものであり、先生のいらつしやらない学校を考えることが出来ないほど先生と学校は一体のものだからである。誕生したばかりの数専を守り育てゝ、一時は数名の生徒しかいなくなつた私達の学部のために一番大きな心労をして下さつた先生である。

今でこそ女性も色々な方面に研究の分野を拡げて来たけれど、昭和の初のあの頃に男子に伍して学ばれた先生の学究心はあまり近くにあつた私達には却つて感じられなかつた。日本で何番目かの理学士という肩書を私達は先生の上にかゝげてみることをしなかつた。やさしい先生のおもいやりに甘えて、我儘を云い、御心配をかけて来た想い出が今も私達と先生をつないでいる。

平野先生には阿部先生以上に卒業生の一人々々が御心配をかけ、お世話になつていると思う。私などもよい気になつて勝手なお願いを勝手な時だけ申し上げている。けれどもこんなに遠慮なく勝手なお願いの出来るのはやはり先生の御人格なのだ、と思う。私などはなか／＼自分の生徒から無理を持ちかけてはもらえない。本当に生徒が頼りに出来る先生になる事は何とむづかしいことだろうと事ある毎に思うのだけれど、その点で平野先生をお羨しいなあと思う。お正月の賀状、暑中の御見舞さへ勝手をかまえて失礼することもある私達に、いつも美くしい返信を頂く。決して容易に出来ることでないのを自分の身に較べていつも感じている。あれは一年の夏休みのあとだつたか、先生がお身体を悪くされて「お医者様に止められているけれども」と仰言りながら、お授業をして下さつた事があつた。弱虫の私は時々学校をお休みし度いなあと思う事がよくあるけれど、そんな時いつも先生を想う。私がお教えした前田千代さんや加藤緑さんが同じ数専の同窓生になつていられる。前田さんの教え子の教え子あたりがもう同窓生になつていられるのでないだろうか。平野先生に三代、四代の教え子達が御世話になつているわけである。まだ／＼五代、六代と続いて私達の先生でいらして頂き度いと切に切に願う。

無題

昭・17・数・卒　辻岡　登志江

何から書いたらよいものかしらと、「宵張り」の子をやつと寝かしつけて、夜更けの一時、久しぶりにもう十二、三年前になるあの当時の想い出に耽つて居りますと、次々と、いろ〳〵の事懐しく思い出されて、一人心愉しく、この様に書く機会の与えられた事を感謝する気持で一杯になります。

あの戦争が激しくなつて来た昭和十九年の春、先生のお宅に家族の一員としておいて頂くまでは、時々のお言葉や微笑におやさしいお心の一端をうかがうだけで、大部分は皆様御存知のあの教室に於ける、先生のお姿が頭にございますので、御家庭の先生が、それはおやさしく、またとてもよくお笑いになるので、驚きました（もつとも、私もその頃、何も知らないにまかせて、変なことばかりしやべりましたので、何時も雪枝先生と御主人の智治先生の笑の種になりました）。あの乏しい暗い時代の筈ですのに、何時も明るい毎日のように思い出されます。

お二方のお客様が始終お見えになるお忙しいお家で、先生は主婦として、妻として、大変細いところまでよくお気をつけられ、学校での印象では、お家で何もなさらないと思つておりましたので、益々尊敬申し上げるようになりました。

数専の卒業生のことも一人々々のこと、よくもあんなにと思う位、よく御存知で、御心配になつていらつしやいました。

ある日曜日のこと、先生は教会へいらつしやり、私はセッセとワックスでそこら中磨きたててから外出して、夕方帰り、台所から入ると、先生のお妹様のYWCAの光先生が黒いスーツをお召しのまゝ、お流で洗い物をなさつていらつしやつて、私にとつて未だにはつきり思い出されるなつかしいあの表情で「望月さん、大変よ、お姉様が階段から落ちなさつたのよ」とおつしやるのです。びつくりして飛んで行きますと、お医者様がいらつしやつて、お背中をうたれた先生は、痛そうにお休みになつていながら、すつかり恐縮した私の顔を見たら、笑わせると痛いのよ、あゝ痛い〳〵とおつしやりながらお笑いが止まらない様です。私がワックスの布で階段まで拭いたからなのです。これが元で御病気になりません様にと、しばらくは毎日お祈りして居りました。

テリア種の「カロ」という犬を大変可愛がられて、先生のベットの傍の椅子にカロの寝床もあり、時々お風呂に入れられます。

先生は智治先生と御一緒にお二階で、遅くまでお勉強なさり、お休前に、もう床についた私たちを起さぬよう、静かにお二人で降りてこられ、お茶を召上つてお休みになります。そんな先生方を私は何時も「いゝなあ」と思つて居

りました。

あの頃何も知らない私が、皆からきいて作つたあやしげな、野草やおからの食事も召上つて下さつた先生方に、今上手になりましたから、何か温い、おいしいものを作つて差上げ、お喜び頂きたいなあと思つて居ります。

平野先生のこと

昭・17・数・卒　関　桜

女子大の四年間は何と言つても楽しかつたの一語に尽きる。親がかりで責任はなし、試験の外は大して気になる事はなし、よき時代のよき学生々活の名残りの時であつた。

卒業してからもうやがて二昔にもなん〳〵とする今、思い出そうとしてもさて何を四年かゝつて習つた事やら、くつつきそうな目蓋を押し上げ押し上げ、生あくびの涙をかみしめて何やら解らぬ記号をノート一杯並べたて、白いページの真中に一つポツンと記した×点を眺める時には全く溜息も出ようと言うもの。そしていたずらでなまけもので（でない例外もあつたけれど）陽気な私共のクラスをだまし〳〵そのくせだまされた様な素振りをして、うまく卒業まではきよせ、ときよせて下さつたのは何だかどうもあの頃の四人の先生方であつた様な気がする。そしてそうした先生方の善意が私共にはつきりと解つていたからこそのその我儘であり、甘えであつたのだろう。

入学式の日、安井学長の新入生への御言葉の中で未だに忘れられないのは「貴女方を信頼します」の一言であつた。そしてその当初一年間の主任の先生が平野先生だつたのである。先生との結びつきがより身近なものである筈の女学校の頃と比べて、先生としてゞはなく、人としての親しみと懐しさをより多く感じさせられるのは何故だろうかと思つても見る。教室以外にはあまり交渉もない先生であるのに、しかも主観らしいものを交える余地のない数学と言う学問の講義のうちにこの先生の御人柄がにじみ出ていた。正直な話、群論も集合論も今となつてはもぬけの殻なのにそれを講義なさつた平野先生と教室の雰囲気は鮮かに思い出す。声を強くされる事もない、表情を作られることもない、学生が黒板の前で立往生すると、先生は困つている学生より以上に戸惑つて途方に暮れた顔をなさる。それはまるで黒板の前でこの学生を困らせたのは御自分のせいでもあるかの様な御様子なのである。

先生のチョークの字は誠に美しかつた。小さくよく揃つた形で黒板一杯に書き並べられた数式は、例え何の意味はなくともそれ自身見事であつた。何と綺麗に並んだものだと妙な事に感心したものだ。自分自身に言い聞かされる様に静かな調子で説明なさりながら、一字一字も疎かにせず書いて行かれる御姿はその中に浸り切つて、淡々として、しかも楽しんでおられる御姿である。私共はこの先生にだけはお得意の仇名もつけられなかつたし、白チョークを真

赤に染めておくいたずらも出来なかつた。そんな冗談が止まる様な無駄を持たない程先生は純粋であつた。

ある寒い日の朝、数人の友人と一緒にたま／＼先生と同じ電車に乗り合せた。卒業したらこんな仕事がしたい、こんな職場を選びたい、私も何げなくこんな所へと言つてみた。さして深い気持もなく、とつさの思いつきもあつたらしい。それ以外には何の心当りもないのに、私にはその通りの仕事を選んで下さつた。あの時の言葉を心にとめていて下さつたのだ、と私は思い当つた。私共の無責任な言葉をもしつかりと受止めて、陰に廻つて努力して下さつているのだと思い知らされた。

何の衒いもなく、見せかけもなく、真実に数学を愛し、学生を愛し、私共が忘れ去つている時にもその一人々々を心にかけて、何時も援助の手を伸べる用意をして居られるような先生なのだと、私は信じて居る。

感謝

昭・24・数・卒　根岸愛子

私が平野先生に始めてお話をしたのは、数学科に入りたくて御相談に上つたときでした。それまで高等学部のときには御顔は知つて居りましたが、直接関係はありませんでした。丁度昭和二十一年、終戦直後の最も混乱した時代でした。私がおたづねした時、先生は学校のホッケー・フィールドのいも畠で仕事をしていらつしやいました。先の見通しもなく、飛びこんだ私を温く迎えて下さつたその時のズボン姿の先生が今でも印象深く残つて居ります。私達は先生から代数を教えていたゞきましたが、戦争中何も勉強していなかつた私達は本当に一から十まで教えていたゞかなくてはならなくて、随分先生に御世話をかけたのではないかと思います。それ以後、今に至るまで先生から受けた有形無形の賜物はとても書きつくせません。個人的なことで恐縮ですが、その一端を記して先生への感謝の気持を表わしたいと思います。

私ははじめ女子大を卒業したらどこかへ勤めたいと思つていましたが、途中からもう少し数学を勉強したいと思うようになりました。そのことを何かの折に先生にお話した時、ただ一言「数学を勉強して行くのはとても大へんなことなんですよ」とおつしやいました。その時は通り一ぺんのことゝしか理解出来ませんでしたけれども、何か私の心にずつしりと重みをもつて残つて居りました。これは先生の御体験の中から出た実感であつて、今の時代とちがつて当時の日本に於て女として先生の歩まれた道がどんなに大へんなものであつたかゞ今になつてようやく少しばかりわかつて来たように思います。

また在学中、Sさんと二人でドイツ語を勉強したいと計画しまして、先生にお願いして短いドイツ語の小説を一緒に読んでいたゞいたことがありました。先生は私達の勝手な願いを快くきいて下さつて、貴重な時間をさいて下さいました。この時間は一週間の中で最も楽しみな時間の一つとなりましたが、今から考えると先生は戦後の困難な時代に学校の重い責任を負つていらつしやつた時で、随分御忙しかつたのだろうと思い至つた時、冷汗が出るような気がいたします。

最後にもう一つ、私が女子大へ戻つて参りまして先生から教えられたことの一つは、時間を守ることでした。先生は本当にきちんと時間を守られる方で、始業のベルが鳴るとすぐお立ちになります。水曜日の全学集会の時には、私などベルが鳴つてもついぐず／＼してしまいますが、先生はすぐお出かけになり、講堂の教職員の席の一番前のところにきちんとすわつていらつしやいます。あとから行つてそのお姿を見ると、何かドキンとしてしまいます。そしてそれは先生が私達の先頭に立つて歩んでいらつしやる御姿をもあらわしているように思います。先生がいつまでも御元気で、私達の歩みを見守り育てゝ下さいますよう、心から御祈りいたします。

昭・30・数・卒　福原徳子

私達が卒業しましてから、早いもので、もう一年半の才月が過ぎ、今年も又すが／＼しい秋の季節が訪れて参りました。

毎日勤めにでて、何か慌しい生活を送つて居りますと、母校を訪ねてゆつくり皆で学生時代を忍ぶような折も少く、淋しく思われることもございます。

そして武蔵野の面影をそのまゝとゞめている美しく、情緒豊な校内、先生方との談笑、又ある時は、試験を前に、冷汗をかきながら、必死で数式を覚えたことなどをふと思い出すと、女子大での三年間の生活がとても懐しく感じられ、今までの生活の中で、最もびやかで楽しい時代だつたような気がします。

入学式の日から卒業式まで、過ぎ去つてみれば、本当に短い一瞬にすぎなかつたように色々な思い出が、眼の前をさつと通りすぎていきますが、私達は人格形成の最も大切な一期間を恵まれた環境と、暖い対人関係の中で送つたことに心から感謝して居ります。そして、私達を導き、常に良い感化を与えて下さつた先生方に対して、又楽しい生活の場になつたすべてのものに対して、何か強いつながりを感じて居ります。

今度平野先生が御退職になられるというお話を伺つた時には、本当に淋しい気持でございました。

私達が大した熱意も持たず、たゞ慢然と授業に出ているような時でも、いつも同じように明晰に熱心に教えて下さつた先生。地味なお身装のうちに、いつも変らない優しさと、学問への熱意と厳しさを蔵していらつしやつた先生に私達は何か教えられるものを感じつゞけていました。

そして、ともすると、怠慢になり易く、イージー・ゴー

イングに走り易い私は、先生のうちからにじみでる優しい中にも強い誠実なお人柄に心打たれたことがしば〳〵でした。

個人的に親しく接する機会はありませんでしたが、三年の間、先生のうちに感じられた「何ものか」がいつも私達を高め、私達の生活の導標の一つになつて下さつたことに心から感謝して居ります。

私達の一身上のことについても、他の先生と共に、何かと御配慮下さいました。私の就職が決まつた時も、研究室に平野先生がいらつしやつて「それはよかつたわね」と心から喜んで下さいましたが、その時の先生の笑顔は今でも私の心に強く残つています。又私達が二年の時、十月の中旬から下旬にかけて、御一緒に東北地方に旅行したことがありました。

すつかり秋も深まつた十和田湖を船で渡つたこと、美しく紅葉した奥入瀬川の渓流をバスにゆられて通つたこと、蔦温泉で私たちと談笑されたドテラ姿の先生の面影などが本当に懐しく感じられます。クラス会やクリスマスの折なども、先生はよく参加して下さつて、いつもにこやかに、私達の話に聞き入つていらつしやいました。でも、いつも先生の隠し芸をうかがうことが出来ませんでしたのが、今でも大変残念に思われます。

勤めはじめてからの生活は、学生時代に想つたような清純なものでも、楽しいものでもなく、時には人と人との感情のもつれに苦しんだり、仕事に対して失望を感じたりすることもございます。又毎日規則正しく繰り返される生活のリズムの中に、段々自分というものが失われていくような淋しさを感じる折もございます、しかし、回りの人々と暖かく円満に生活しようとする心遣いや、平凡でも、人生の目標を正しく見きわめて生きていこうと努力する気持など、三年間の生活を通じて、先生方の暖い御指導のもとに、私達に培われたものと信じています。

この上もなく、よい導き手であられた平野先生が、今後も一日も長く私達を教え導いて下さるよう、祈つてやみません。最後に先生の御健康を心からお祈り申し上げます。

平野先生への記念品贈呈を計画して

昭・6・数・卒　豊泉しげ

龍頭蛇尾という言葉がございますが、凡そこの種の募金についてはこの言葉の通りなりがちだという事を聞いておりましたし、又御注意を受けたりも致しました。万が一の場合を考えて計画のたてなおしをしてみたり致しましたが、大丈夫というあてもない確信だけが役員の者達の心を占めている共通の信念であつたようです。どの役員からも不安の言葉一つ漏れず、どんな注意をいたゞいても、大丈夫よ、大丈夫よとたゞそれだけでした。この役員の者達の確信は何であつたろうか、申すまでもない。誰方が計画しても同様な確信が同様にもてたのではないかと思われます。表面は仂きかけた形であり乍ら、その実内面から盛り上つた皆さんの力の結晶がこの様な形になつて表われただけでございますから、それにつけても事毎に平野先生が崇高な存在として、私共の心にどんなに力強く生きていられるかという事をひし〳〵感じさせられました。それよりも更に感激し、発見致しました事は時を得て恐る〳〵先生の御希望をお聞きした時、電蓄を希望され、小さくつても音のいいもの、宗教音楽、皆さんがいらしたらかけてあげられるように、と言葉少なに語られる、その奥に信仰の火がまつかに燃えていられる事でした。そして益々燃え盛りつゝあるという事でした。全き愛に生きる者の懼なき姿に打たれ改めて頭の下がる思がいたしました。そして先生は今尚、私共同窓生を忘れる事なく、我子の様に心にかけていられる事も併せて御伝えいたします。

一度御訪ねしてみて下さい。屹度先生は皆さん御一人一人にこのレコードをかけて下さると思います。

募金報告

爽やかな好季節となりました。皆様御機嫌よく御家庭に又お仕事に御多忙の毎日をお過しの事と存じ上げます。扨、今春平野先生が専任教授の職を退かれましたに際し私共の計画致しました企に対しましては、皆様方多数の御協力を得まして目標額の二倍を超える状況となり、豊泉会長はじめ私共関係者一同感謝致して居ります。この様に数専の方は勿論、数専以外の同窓多数の方々の御賛成を得ました事は平野先生の偉大な御人格の現れでございませう。どうか先生のお眼が良くなられ、益々お元気でお過し下さいます様、皆様方と共にお祈り致しませう。

次に簡単ではございますが、左に募金の状況をお知らせ申上げまして経過報告と致します。

数　専（先生方も含む）　四一七人　二四二、三七六円

数専外　一八三人　一〇六、二二九円

他に（支部　三）（クラス有志　一）

計、五九六人、他に支部三、クラス有志一　三四八、六〇五円

（会計　片岡ヒサ記）

研究室便り

● この春数学研究室としては珍らしく二泊三日の旅行に出かけました。それは平野先生の専任教授退任、小河原講師の教授就任、渡辺先生の帰朝、根岸さんの専任講師就任

の歓送迎をかねての懇親会でもありました。熱海では宿の前の桜が満開に近く、ことに電燈に映える夜景の美しさは格別でした。翌日は伊東経由で蓮峨沢温泉に行きましたが、この日も天気はよし、それに学年末の解放感も手伝つて近来にない楽しい旅行でした。

● 次に研究室関係の先生方を紹介します。

小河原 正巳先生 ——数年前から講師として来任されておりましたが、この四月、平野先生の後任として専任教授に就任されました。専門は統計学で、すでに多くの論文を出しておられますし、「ウィルクスの数理統計学」の全訳者としても皆さんすでに御存じの方と思います。

将来はこの方面に興味をもつた学生も多く卒業されると思いますから、このことを念頭において、卒業生の職場開拓などに御協力下さい。

渡辺正雄先生 ——物理学の担当で、別に物理学研究室をおもちですが、所属が数理科なので、おくればせながら紹介します。

新制大学開設当時からの就任ですが、その後科学史研究のため二年間米国に留学しておられました。この春「自然科学史」を一般教育科目に加えたところ、多くの受講者があるときいています。数専会の研究部でも機会があつたら科学史の研究会を先生にお願いしてみたらいかゞでしようか。

清野 礼さん ——根岸さんの後任として五月以来副手に就任されました。本年三月の数理科の卒業生で、目下東大の聴講にも通つています。

● 平野先生から左の書籍の寄贈申出がありました。新宿の紀伊国屋書店を通じ、それぞれ注文してありますが、一部はすでに到着しております。四年制大学への希望も大きい折柄、書籍の充実は何より心強いことゝ思つています。先生の御厚意に対し改めて感謝申上げる次第です。

(1) Princeton Mathematical Series 巻21 巻16
(2) N. Bourbaki の叢書

(小林記)

研究部報告

お知らせ

研究会は九月で前期を終り、十月から後期に入ります。殆ど前期の継続ですが、多少変更したものもありますのでお知らせします。

一(イ) 現代数学入門 平野先生
集合論入門 女子大35番教室
才一(又は才二)土曜 三時半—五時 会費 月 百円
(ロ) 移動法による幾何 土居先生
牛会 幾何問題集による 女子大35番教室
才一(又は才二)土曜 二時—三時半 会費月 百円
(ハ) 小・中・高 の算数、数学について
中谷先生を囲んでの話し会う会

才三(又は才四)土曜 二時—三時半 会費月 百円
女子大35番教室

現職の方、お子様をお持ちの方、数学教育についてのいろいろのもんだいを、お持ちより下さい。

二、(イ) Newman Topology ゼミ 女子大
才一・三火曜 六時—七時半 会費月 百円
女子大
(ロ) 統計 小河原先生
(1) 仮設検定と実験計画
参考書 宮沢著「近代数理統計学通論」
才二・四木曜 六時—七時半 会費月百五十円
(2) 統計入門 女子大
四五人集つてぼつぼつ勉強をはじめています。
テキスト「ウイルクス初等統計解析」はやさしく、ゆつくりもんだいをしながらすすんでいます。どなたでもお入り下さい。
才一・三木曜 六時—七時半 会費月 百円

三、幼児の数学指導に関する心理的研究
東 安子(20・英卒)先生に指導をしていただいたり雑誌の回らんをしたりしています。
十月は(水曜の予定)集会をします 女子大
連絡先 杉並区東田町一ノ二八 中屋澄子

報告

研究会は三十二年度前期(四月——九月)を終り、十月から後期に入ります。各学科とも人数はかなり少くなりましたが、固定した小数の熱心な方達によつて続けられ、先生方も親切に御指導して下さいます。

次に各科の責任者の方に報告をして頂きます。

一、(イ) 現代数学入門

前期三回は小林先生に、四回目からは平野先生に講義をしていただいています。「集合論入門」 赤摂也著をテキストに、十月迄に濃度の章を終り、十一月から順序数に入る予定です。本を読んでもわからない事が平野先生の懇切丁寧なお講義で、耳から学んで行かれます。数学以外の仕事を持つていらつしやる方、家庭にいらつしやる方もどうぞ、研究会のこの講座を御利用下さつて、一ケ月に一度、学生時代の学ぶたのしさを味わつて下さい。なつかしい校舎で、なつかしい平野先生に接するだけで、強く生きていく力が与えられる事と思います。

第一(又は第二)土曜 三時半—五時
いつからでも御入会下さい。 (昭・10・卒 池野、朝永)

(ロ) 幾何研究会

移動法による幾何の解決を御研究になつておられる法政高校の講師 土居晋三郎先生を中心にしまして、この四月から牛会の受験補習の問題集を学んで参りました。解法は移動法ばかりでなく、各自が考えて参りました方法を申し出て、どの方法が一番生徒に教える場合に教え易いか、理解し易いかを研究して参りました。これからは高校においても幾何が必須になつて参りましたので、如何に教えるかを教えるもの自身が研究しなければ、従来の様な行き方は

かりに頼つていてはます〳〵幾何を学生の間から遠ざける結果になつてしまうのではないでしようか。今後どの様な形にもつて行きますか、大いに研究の余地が残されておりますが、熱心な方々の多数の御参加によつてもり上げて参りたいと存じます。都合により一月から三月までは休みにして、四月から新しい計画のもとに始めたいと思います。御意見をお寄せ下さい。（昭・22・卒　青木、斉藤）

(ハ) 小・中・高校の算数、数学について

四月から九月までの間、毎月才三か才四の土曜日に母校の35番教室で、中谷先生のお講義が御熱心に行われました。午後二時から三時半までの予定がついのびて、四時頃までになることもありました。

学校で教えている方、小学校、中学校の子供のある母親、家庭教師をしている人、亦卒業間もない若い人など様々な人の集まりでしたが、お講義が「小、中、高校の数学教育に就いて」というテーマでしたので、割合にとりつき易いことでした。

昔の黒表紙のものからはじまつて、教科書の移り代りの様子を実物で見せて戴いたり、全国学力検査の結果の批評や、日数教全国大会の模様などを伺つたりしながら、大体小学校、中学校、高等学校の数学教育の動行と問題点についてのお話を終えました。

一ケ月に一回でも母校に来て、先生にお目にかゝり、又友達にも会つてしばし家庭の雑事を忘れ、勉強らしい雰囲気にひたるのも楽しいことです。

ひきつゞき十月から四月まで、今迄と同様、才三か才四の土曜日に実際的に子供を教える場合に理解させにくい問題とか、その他種々の問題について、先生を囲んでの座談会があります。（昭・13・卒　多賀、吉利）

二、(イ) ゼ　ミ

この会は Newman "Elements of the Topology of plane sets of points" をテキストとして、31年十月から始めたものです。講師に、西宮、根岸両先生を御願いして、適切なる御指導のもとに、漸くテキストの半ばを終えました。会員は、多少の新陳代謝もありますが、約一〇名前後皆自分の番に廻つてくるのを何ケ月も前から待機しているほどの熱心さであります。今年一杯で、このテキストを終り、33年一月から四月まで「稲葉栄次著　群論入門」（培風館）を勉強する予定です。

少しでも興味のおありの方は、一度覗きにお出かけ下さい。毎月才一、三火曜日　六時―七時半　女子大でしております。（昭・19・卒　柏木、昭・29・卒　高宮）

(ロ) 統　計

(1) 昨年十月、近代数理統計学通論（宮沢光一著）により小河原先生の講義が始められ今まで続いて居ります。このテキストはかなりむずかしいので、現在はこれを参考書として講義が進められ、十月末で仮説検定が大たい終り、十一月から実験計画に入ります。

毎週才二、四木曜　六時―七時半　女子大35番教室

会費月　百五十円（昭・7・卒　中屋、昭・25・卒　佐藤）

(2) 統　計　入　門

七月から中屋様を中心に四、五人集つて勉強をはじめています。テキスト「ウィルクス初等統計学」をやさしく、ゆつくりすゝんでいますからどなたでもお入り下さいませ。

期日は才一、才三木曜　六時―七時半　数学研究室

会費月百円。

度数分布、標本平均と標準偏差、初等確率論、確率分布まですませて、唯今(十月)二項分布に入つた所です。（昭・11・卒　宇佐見）

三、幼児の数学指導に関する心理的研究。

（昭・19・卒　柏木、昭・20・卒　梶井）

なお各科には責任者の方が居られていろいろお世話をして下さいます。御問合せその他は責任者の方に、全般的な事は私まで御連絡下さい。研究会についての御意見、御希望等ございましたらお聞かせ下さいますよう。それを参考にして次期（四月より）の計画を立てます。（中屋澄子）

通　信

◎ 八月五日、午後九時上野発羽黒に一行六名乗車、お子様方まで動員して六時前から並んで席を取つて下さつた小林先生、中谷先生のおかげで通路まで新聞紙を敷いて身動きも出来ない程つめ込まれた車内の中程に、いういうと席をしめる。先生方と豊泉さん、池野さんともう一人女高師出の方と六人、何だか昔の修学旅行のようだとはしやぎたくなつて来る。椅子の下にまで通路からだれかの足が侵入して来ているような車内も酒田あたりでかなり降る人があつてゆとりが出て、車窓から見える日本海の眺めに見とれながら翌朝八時半　秋田に着く。

駅には秋田市在住の只一人の数専会員、安田里子さんが晩の集りの準備をとゝのえて迎えに出て下さつた。一応宿屋に向い大分ごたごたした末、結局坐り込み戦術で石橋旅館におさまり、東京から来られた茂木さんと同室になる。急いで数学教育会大会会場に向い、和達先生の御講演もあまり耳に入らず、東京女子大卒業生へのビラをはつたり、放送したりで、さて何人集るかと心配したがら指定の玄関前に行く。　少くとも先生方と安田さん、茂木さんと私たち三人、それに北海道から清川さんが来て居られるとして八人は集る予想だつたが九州の島谷さん、新発田の松田さん、仙台の八木さんと来られ予想以上と喜んだ。さて記念撮影となつたが小林先生がどうしても見つからず、平野智治先生に入つて頂いて撮影をすませ、晩集る場所を安田さんに伺つて各自の分会に分れて行く。

公園内の松下亭の静かな一室で、一年前から楽しみにしていたこの一時を心ゆくまで話し合い、うれしさに先生の

おつき合いのビールがついはずんで来る。清川さんだけ見えなくて先生をまじえて十人。学長先生、平野先生によせ書きして、始めて会つた人達も前からの知り合いのようにしばし話がつきなかつた。

翌日は二十三年卒の斉藤さんが来て居られる事を知り、夜はお祭の秋田の町を大勢で歩き廻つた末、先生のお宿に上り込んで十一時過ぎまで話してしまつた。

来年の大会は東京、次は名古屋です。もし来年これを機会に上京しようとお思いの方はどうか御連絡下さい。又集つて楽しい一時を過しましょう。

（中屋澄子）

◎　卒業以来十七年ずつと女学校、高校と群馬県、新潟県の学校で代数・幾何、戦後は解析Ⅰ・Ⅱ・幾何、只今は数学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲと名前だけは色々と変つた様でございますがその都度教授資料等をベラ〳〵捲りまして何とかその場その場を過して参りました。母校に参りましたのが十九年、以来ずつと母校の方に勤めて判で押した様な毎日を送つて居ります。皆々様如何がお暮しでいらつしやいますか。此度秋田へ参りました折（秋田で数学教育研究会がございました）副会長さんの御依頼で何か会誌の原稿をとの話でございました。その時は「ハイ〳〵」と気安くお引受け致したのでございますが、さて帰宅して考えて見ました所、生来の怠者加えて拙文でございますので今日、明日と延ばしている中に刻々〆切の八月卅一日になつてしまいました。日頃地方に居りまして何のお役にも立ちませんのに原稿の催促等戴いては申訳ないと思つて筆を取りました。

秋田では卒業後始めて小林先生、中谷先生の両先生にお目にかゝり、昔に変らぬ両先生のお姿に接しました。数学科に席を置いた皆様でしたら御存知かと存じますが、例えば小林先生の手の裏や中谷先生のお出しになる手の角度ちよつとあげてもこの様なものです。あとは皆様の御想像におまかせ致します。尚この会に出席された同窓の方々十一名で両先生を囲み、秋田公園の一隅で近況やら、昔話に花を咲かせましたが、この時の模様については東京の幹事の方々が書かれると思いますので省略致します。私の様に田舎に居りますと東京の様子もさつぱり分らず、時に出て行くことがございましても、戦後すつかり変貌致しました都を眺めて「マア」と感心している中に母校を訪れる日も時も無くなつてしまう様な状態でございます。在京の方々のお話に依りますと数学研究室では皆様各種の御研究をなされて居られる御様子を承り、大変心強く、又うらやましくも感じて参りました。明年は東京で研究会が開かれる予定になつて居りますので、地方在住の方々是非御出席下さいまして、先生方を囲んで同窓会が本年より盛に行われます様に今より期待致してます。拙文で申訳ございません。

（八月卅一日松田　範）

東京女子大学同窓会数専会会則

第一章　総　則

第一条　本会は「東京女子大学同窓会数専会」と称する。

第二条　本会は会員相互の親和と学術的研究を図ることをもつて目的とする。

第三条　本会は前条の目的を達するために左の事業を行う
一、講演会、研究会並びに講習会の開催
二、会誌の発行
三、その他

第二章

第四条　本会の会員は左の通りとする。
一、東京女子大学数学専攻部数学科及数理科卒業者
一、東京女子大学数学専攻部数学科及数理科に一年以上在学した同窓会員

第五条　本会の趣旨に賛同する東京女子大学現教員及旧教員はこれを客員とする。

第三章　役　員

第六条　本会には左の役員をおく。

会　長	一　名
副会長	一　名
書　記	二　名
会　計	二　名
会計監査	二　名
幹　事	若干名

第七条　会長は会員中の推せんしたものについて総会でこれを決定するものとし、任期は二年とする。
会長は会の企画並びに運営に関する事務を総括する。

第八条　副会長は幹事の互選によりこれを決定し、任期は二年とする。
副会長は会長を補佐し、会長事故あるときは会長の職務を代行する。

第九条　書記　会計は幹事の互選によりこれを決定するものとし、任期は二年とする。

第十条　会計監査は総会の承認を得て、会員中より会長がこれを委嘱するものとし、任期は二年とする。

第十一条　幹事は各クラスから一名選出する。

第十二条　役員の補欠を必要とする時は前記各手続によるものとし、補欠者の任期は前任者の残りの期間とする。

第四章　総　会

第十三条　定期総会は年一回会長がこれを召集する。
会長は必要に応じ幹事会の議を経て臨時総会を召集することが出来る。

第五章　幹　事　会

第十四条　幹事会は会長が之を召集する。

第十五条　幹事会は会長の諮問に応じ本会の行うすべての企画運営について会員の総意の反映するごとく審議決定を行う。

第六章　会　計

第十六条　本会の会計年度は毎年四月一日より始まり翌年三月三十一日に終る。

第十七条　本会の会費は会員各自が終身会費として次に定める金額を卒業時に納入する。

昭和六年―二十四年卒　二〇〇円
昭和二十五年―二十九年卒　三〇〇円
昭和三十年卒以降　五〇〇円

第十八条　本会は通信費を会費以外に必要に応じて徴収することが出来る。

第七章　会則の変更

第十九条　本会会則を変更するときは総会で出席者の三分の二以上の賛成を得なければならない。

附　則　本会則は昭和三十一年十一月十四日より実施する

編　集　後　期

「平野先生の特集号」を計画致しましてから大変おそくなつてしまい、係の怠慢ぶりに皆様あきれていらつしやることかと存じますが、此の度漸く御手許におとどけすることが出来ますのをよろこんで居ります。

原稿が少しづつ集まりますにつけて欲が出てまいりまして次々とあの方、この方と考えてはお願い致しました為、締切り日を段々と日延べして遂に年を越してしまい、申し訳なく存じて居ります。

教室でだけの先生とは又別の面を次々にしらされ、今更乍ら先生の御徳に感じ入るばかりでございます。

数専以外の方々からこんなに沢山の原稿を頂けましたことは内容を充実させるのに何よりのことだつたと誌上を拝借して厚く御礼申上げます。

是非書き度いけれどどうしても間に合はないから日延べをしてほしいと言つて下さつた方や、雨の中を係の宅までもつて来て下さつた方、速達で送つて下さつた方等のことを思いうかべ、その度に内容のふくれることを楽しみにしていた日のことをしのびつゝ、今筆をとつて居ります。

先生のお姿を浮き彫りにすることが出来たのも皆様の御協力のおかげとよろこんで居ります。

いつまでも先生の御徳をしのぶよすがとなり、又私共の指針となるものを受取つて頂ければ幸いに存じます。

最後に募金の報告書と共に御手許にとゞきました先生のお言葉の封筒の上書は先生御自身が御書き下さいましたことを付け加えさせて頂きます。

（係）

会　報　第五号
――平野先生特集号――

発行日　昭和三十三年二月
発行者　東京女子大学同窓会　数専会
東京都杉並区井荻三丁目
発行所　東京女子大学内
東京都杉並区西荻井戸二ノ三
印刷所　氷見印刷所
電話荻窪(39)七九三六番